

第7回教育改革シンポジウム記録

「遠隔教育を考える」

令和2年9月14日(月)の午後1時から本学の大学会館ホールにおいて、「遠隔教育を考える」をテーマとして第7回福山大学教育改革シンポジウムが開催された。降って湧いたようなコロナ禍の下、ほとんど全ての教員が取り組まざるを得なくなったオンライン教材による遠隔授業を取り上げるというタイムリーな企画であった。日頃は1号館の大講義室で開催しているシンポジウムであるが、今回は「三つの密」を避け、感染予防に最大限の注意を払うために大ホールでの開催となった。例年どおり2部構成のシンポジウムの前半では、外部からお招きした北陸大学経済経営学部長の山本啓一教授による基調講演が行われた。後半では、事前に実施した遠隔教育に関するアンケート調査の結果が佐藤英治教授(薬学部)から報告された。続いて、本学での遠隔教育の実践事例として、①音声や動画によらない教材を使用の村上亮准教授(人間文化学部人間文化学科)、②音声動画を使用の香川直己教授(工学部スマートシステム工学科)、③Zoomを主体とした双方向授業の佐々木伸子准教授(工学部建築学科)からの報告があり、さらに全体での質疑応答が行われた。ここでは、基調講演から質疑応答まで、シンポジウムの全内容を再現することとする。

はじめに

(司会：大塚 豊 副学長・大学教育センター長) みなさんこんにちは。教育改革シンポジウムの時間になりました。定刻になりましたので早速始めたいと思います。開会にあたりまして学長から一言ご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(開会あいさつ：松田文子 学長) こんにちは。ちゃんと上着を持ってきたんですけど、暖房が効いてそれで冷房が効かないようですので、ゆるめて失礼します。今日は教育改革シンポジウムということで、たくさんご参加いただきましてありがとうございます。本学では5月の連休明けから多くの科目で遠隔授業取り入れてきました。コロナ渦への対策としておそらく多くの先生方にとっては、あまりなじみのなかった遠隔教育でしょうが、急遽実施したオンライン教材作成のための研修会へ参加してくださった先生方を始め、みなさんそれぞれに大変なご苦労と努力をされまして、そのおかげをもちまして前期の授業一応無事に終えることができました。心から感謝したいと思います。またこうした遠隔授業のあり方をこの教育改革シンポジウムのテーマに取り上げていただきましたことは極めてタイムリーな企画で学長としては非常にありがたく思います。本日の基調講演は北陸大学の山本啓一先生に遠路金沢からご多忙の中をおいでいただきました。大変ありがたく思っております。国際関係論がご専門かなと思いますが、幅広い視点から遠隔授業を含む新しい教育のあり方を勢力的に取り組んでおられる先生のお話を大変楽しみにしております。また本日は本学での

遠隔教育に関わる ICT 機器や環境の整備状況の報告、更に実践報告事例もあるということでこれも大変楽しみにしております。限られた時間ですがもうすぐ始まる後期の授業、これも遠隔授業と対面授業とハイブリッドにならざるを得ませんがその後期の授業に向けて本日のシンポジウムが稔り多いものとなることを祈念いたしまして、簡単ですが私の挨拶とします。では本日はよろしくお願ひいたします。

（司会：大塚 豊 副学長） 松田学長どうもありがとうございました。本日の司会進行はこの改革シンポジウムを主催しております大学教育センター長の**大塚**が務めさせていただきます。コロナ禍のために普段会場として使う1号館の大講義室とは違って、3密を避けるため、このホールを特別に準備したのですけれども、どうも勝手が違います。移動するのも大変時間がかかると思いますので、後で全体討議の時にご意見をいただく際に何か発言しようと思っていらっしゃる先生は是非とも前の方につめておいていただけたら助かります。早速始めましょう。まず講演者ですが、先程学長からご紹介ありましたように北陸大学の**山本啓一**先生です。先生のご活躍につきましては、時間の関係上、入り口でお配りいたしました本日のプログラムの中に書いております。それ以外のことで1、2付け加えさせていただきます。先生は前任校において大学教育改革において非常に優れた実践をなさいました。そうした大学に関する卓越した手腕をかわれまして、北陸大学に懇請されて異動されたと伺っております。本日もきっと我々にとって有益なお話が伺えるのではないかと思います。特に北陸大学からおいでいただいたのには理由があります。実は北陸大学と我が福山大学は創設の時期が全く同じ、1975年であります。それから学部の構成も文系、理工系、それから薬学部というように似通っています。さらにサッカーが非常に強い。それから全国で15置かれた孔子学院も、この2つの大学にあるという共通性があります。ですから、きっと北陸大学ならではの、我々にとって役に立つお話を伺えるものと思います。それでは**山本**先生どうぞよろしくお願ひいたします。

第一部：基調講演：「遠隔授業の授業設計と授業方法」

講師：北陸大学経営学部 山本啓一先生（学部長・教授）

（講師：山本啓一先生、北陸大学教授） みなさまこんにちは。北陸大学の**山本**と申します。私、実は生まれが岡山でして、高校まで岡山におりました。中国地方は馴染み深いというところがありまして、今日も喜んで参りました。

私は元々国際関係論が専攻だったんですけども、前の大学は北九州市の八幡にある九州国際大学というところで、そこで法学部長をやって、そのことが縁で北陸大学に呼ばれたという経緯があります。

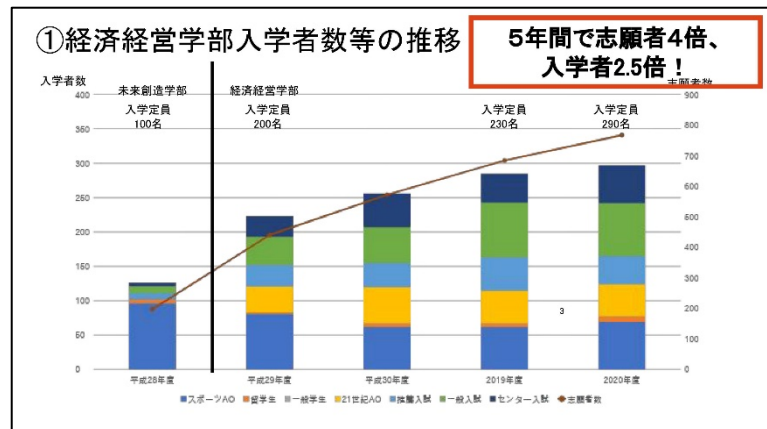
この4年間で色々な改革をしてきた



んですけども、今年この予期せぬコロナによって、今まで積み上げてきた手法から大転換をして、先生方も一緒だと思いますけども、本当に一週間単位といいますか、数日単位で新しいことをやらなきゃいけないという大変な経験をさせていただきました。その経験を振り返って、何かお役に立てるようなお話ができればと思っております。お配りしたハンドアウトでは遠隔授業導入のプロセスとかいろいろな内容を詰め込んでおりますけれども、少し端折りながら、お話をさせていただきます。

先程大塚先生からご紹介いただきましたように、北陸大学は創立40周年を3年前に迎えました。北陸大学は薬学部から始まっております、建学の理念は「自然を愛し、生命を尊び、真理を究める人間の形成」で、使命や目的は「健康社会の実現」ということです。文系学部は4年前に経済経営学部と国際コミュニケーション学部に変更しました。

経済経営学部単独の話させていただきますと、この5年間で志願者が4倍、入学者が2.5倍になりました。グラフで色分けしているのは入試別のタイプで、スポーツ推薦、21世紀型スキル育成入試、あと推薦、一般、センターという形で、多様な学生が混在する学部構成になっております。一方で、退学率は逆にどんどん下がっております。



特に退学率を下げる工夫ってのはやってないんですけども、担任制度のようなパーソナル支援に過度に依存せず、組織的な教育改革で勝負してきました。学生数がどんどん増えていくから退学率も上がるんじゃないかと思っていたんですけども、昨年度は過去最低まで下がってきました。

さて、今日のお話は4つほど用意いたしました。1番目は遠隔授業の移行プロセスなんですが、これは今更詳しく話さなくてもいいかなと思います。もしかしたら職員の方はですね、こういったプロセスにご興味おありかもしれません。経済経営学部は、3月の終わりには、学部としてはいつ遠隔授業になってもいいように進めていきました。本来は4月12日が授業開始日だったんですけども、その直前で授業延期の決定が行われ、それとともに学生全員がオンラインのシステムにアクセスする準備をまずやって、4月22日から授業は全て遠隔でやりました。7月からは半分ぐらいが対面授業になり、8月で7割か8割ぐらいは対面という形です。後期になると遠隔授業は1割以下だと思います。

遠隔授業のポイント

2番目は、遠隔授業のポイントです。遠隔授業の方法については、恥ずかしながら私自身最初はとりあえずやればいだろうということで、それほど深い考えもなく、manabaを基本として課題提示とか双方向性を最低限保証すればいいんじゃないかと思っていました。90分オンラインっていうのは学生のWi-Fi環境もありますし無理だろうと私自身は最初に思っていました。しかし、4月22日から授業が始まると、ほとんどの授業は同期型で開始されました。1・2年生はPC必携にしていたのが功を奏しました。

また、本学ではこの4月から、manabaに加えてGoogle G Suite、Office365、5月からはZoomという風に、なんでも使える環境が揃ってしまいました。私と同じ学部には田尻慎太郎という情報担当学長補佐の教員が昨年着任しまして、この人が中心になってこれだけのシステムを導入したんですが、情報教育に詳しいもんだから色々相談すると、「何か1つに絞る必要なんてないよ。学生もオンラインツールを1つしか使えないなんておかしいよ」ということで、あえて方式を定めませんでした。学生も最初のうちは、授業によってツールが違くと混乱するって言ってましたけど、それはそのうちおさまって、Microsoft TeamsもZoomもG Suiteもだいたい使えるという形になってきました。途中でMiroっていうオンラインのサービスも使うようになりました。

しかし、実際のところ、なんの準備もなく遠隔授業がポンとスタートした訳です。先生たちは大いに不安だったはず。私も最初に他の教員とZoomを使ったのは3月のなかばでした。Microsoft Teamsに最初に触れたのは3月末です。本当にばたばたの状況ですね。だから、非常勤の先生も

含めてZoomで4月から5月にかけて、隔週ぐらいで情報交換会をしました。こういう場合にはどうしたらいいんだろうという先生方の質問とか悩みにも回答したり、他の先生が事例を紹介したりっていう感じですかね。その中で、初年次教育では、Microsoft Teamsを使って、われわれ教員自身が学生と一緒にいろんなことを少しずつ覚えて行きながら、使い方を習得していきました。

一方で、学生に対しては、やっぱりこの期間に学生の心が折れてはいけないと思って、2週間に一度は私の方から学部長メッセージということで、毎回10分から15分ぐらいの動画を送るようにしました。メッセージを送りながらアンケートもお願いして、そのアンケートの結果をもとに遠隔授業の課題を改善していきました。経済経営学部は

全体が留学生も入れて1,200人ぐらいですけども、そんな中で、アンケートは500人から700人ぐらいの回答をもらいました。

毎回のアンケートで授業の満足度について質問したところ、4月、5月、6月とわずかながら少しずつ平均点が上昇していきました。コロナ対応に関する評価も聞いたんですけど、遠隔授業への対応が早かったというようなこととか、学生の意見を反映してくれてる、そういった声が出ておりました。また学修時間のアンケートを取ったところ、もともと日本の文系学生は本当に勉強時間が短いんですけど、時間外学修時間がかなり増えています。ただし、これはコロナ禍の中で全国の大学どこでも起きたことかもしれません。

遠隔授業のためのFD

- 3月13日 基礎ゼミ担当教員で初Zoom打ち合わせ
- 3月27日 Microsoft Teamsを初めてインストール。4月からの授業に導入するために試行錯誤を開始
- 4月7日 Teamsで基礎ゼミ準備に関するうちあわせ
- zoomFD(非常勤も含む)
 - ・4月13日「遠隔授業の検討・実施」
 - ・4月28日「遠隔授業の情報交換」
 - ・5月28日「ハイブリッド型授業の方法」
 - ・8月4日「遠隔授業のふりかえりと今後の検討」

| 授業満足度調査 | 4/28-5/1 | 5/15-5/18 | 6/15-6/19 |
|---------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 平均値 | ★★★★☆ 評価の平均 3.43 | ★★★★☆ 評価の平均 3.54 | ★★★★☆ 評価の平均 3.57 |
| 回答者数 | 498人 | 657人 | 582人 |
| 回答率 | 41% | 54% | 48% |

遠隔授業満足度調査

- ・回を追うごとに「遠隔授業満足度」が上昇。
- ・特に1・2年生で評価が高い傾向

その後、6月から7月にかけて対面授業が一部復活していった、学生のアルバイトなども復活していったんですが、それでも大半の学生の学修時間は変わらないと回答しています。むしろ増えたという学生も多くてこれはびっくりしました。その理由として授業全体で課題が増加していると。これは学生からクレームとしても出てきました。た

だそれ以外にも学修の目標が定まったとか、学修習慣がついたという学生もいて、授業外の時間で課題をするのは当たり前という雰囲気は定着していったのかなと思います。ですからこの雰囲気を後期も緩めず、時間外学修は当たり前という雰囲気は維持しながら、課題全体が多くなりすぎないように学部全体として調整していくとか、つまらない課題を出すんじゃなくて、いい課題を出していくことが大事だと思っております。

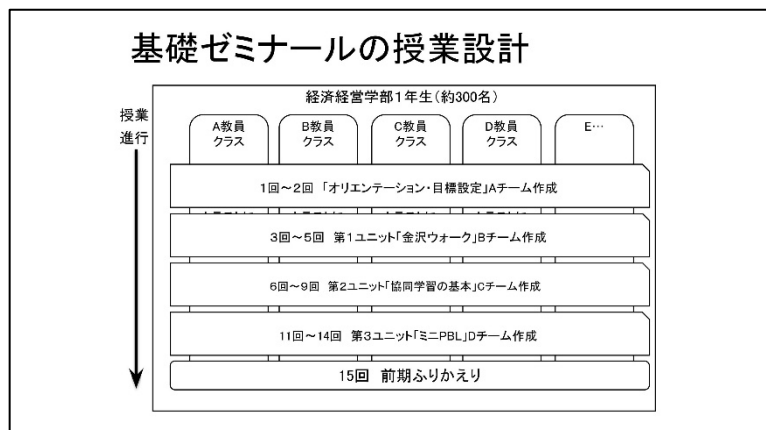
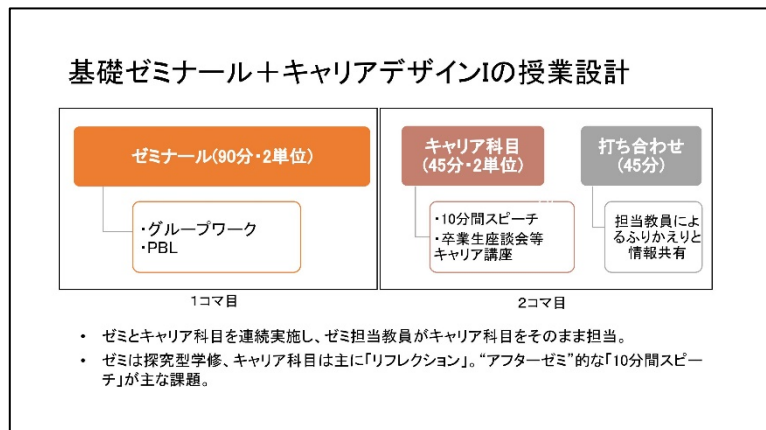
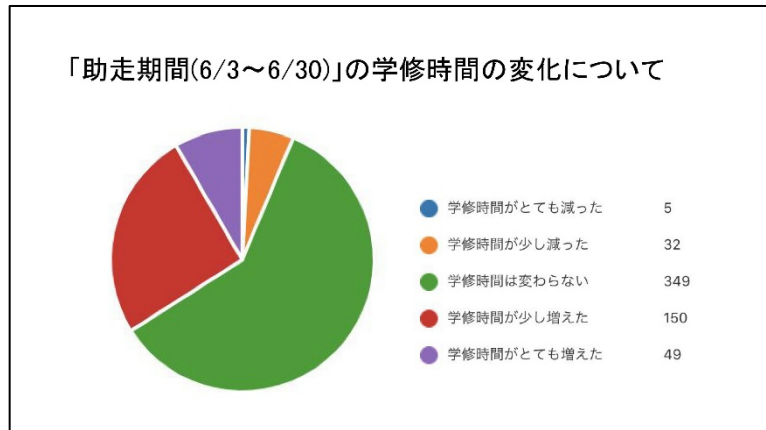
それでは、遠隔授業について、学部として取り組んだことを中心にお話させていただきます。

まず、1年生必修科目の基礎ゼミナールとキャリアデザイン I という授業の紹介をさせていただきます。基礎ゼミはいわゆる初年次ゼミなんですが、それにキャリアデザイン科目もくっつけて、2科目でワンセットになっています。

ゼミでは協調・協働学習的なことを色々やって、1年間で4単位です。一方でキャリア科目は2単位なんです。そこでキャリア科目を1コマ45分にして、ゼミに続いてそのままやるんです。合計すると135分になります。すると、授業終了後に45分間余るので、その時間は毎週打ち合わせをしています。今は、SA (Student Assistant)も一緒に打ち合わせをしています。

クラス編成は15クラスで、15人の先生が担当しています。全クラス同じ授業内容で、オリジナルの共通教材を開発して使用しています。

教材は、数コマごとにユニットとしてまとめて、各ユニット教材を先生たちで分担しながら作っています。第1ユニットを誰々先生たちが作って、第2ユニットを誰々先生たちが作る、第3ユニットは誰々先生たち、みたいな形です。こういったことを、基礎ゼミナール、日



本語リテラシー、そして2年ゼミなど、いくつもの授業でやっています。要は同じ科目をクラス分けして、複数の先生で担当するという時に、我々の初年次教育では教材をみんなで分担して作ってそれを全員が使う、そういう形でやってるんですね。

まずはシラバスをご覧ください。例えば基礎ゼミナールですと、授業計画を見ると、3コマ目から5コマ目が第1ユニットです。ユニットごとに到達目標と授業の概要が記されています。シラバスに加えて、他の先生が作った教材を使うためには、単にワークシートとかそういうものがあるだけではダメでして、学生に配る資料以外に、90分をどう進行するかという授業案ですよ、我々はコマシラバスと呼んでますけど、こういうものを作っています。

第3回は Teams の使い方をみんなで学んでいくというテーマです。コマシラバスをご覧ください。このときには、学生はみんな顔をほとんど合わせてないですから、オンラインツール上でのグループワークを通じてゼミの雰囲気を作っていくことも目標の一つでした。コマシラバスをみると、授業の最初の5分間でこういうことをやって、次の10分間でこれをやり、その後5分間でこういうことをやって、15分間でこういうことをやります、ということが書かれてるんですね。

基礎ゼミでは90分間カメラミーティングという授業は全くありません。最初にビデオ会議でインストラクションを15分やって、その後のグループワークでは教員はカメラをオフにする。この回では、グループごとに個別のチャンネルに移動してもらって、その中で3つのアクティビティを学生にやらせよう。そのためにグループチャンネルの中でチャットをすとか、カメラミーティングをやらせようとかですね、そういうようなことをやらせられました。その間に、SAはグループチャンネルを回って行って色々アドバイスをします。最後のクロージングの15分間では、全体でオンカメラにして、成果物を共有して発表します。翌週の第4回はその応用編で、パワーポイントを共同編集するっていうワークが入っていくんですね。こんな風に遠隔授業でも、コマごとの構造化が重要だと思っています。

実は遠隔授業のサポートというのは大学には一切ありませんでした。オンラインツールのマニュアルも一切作りませんでした。こうやって少しずつ授業のなかでやれることを追加していきながら、学生も教員も、「あっ、こういうことができるんだ」ということを学んでいって、徐々にオンラインツールを使いこなせるようにしていったのです。ちょうど第1ユニットの教材作成を担当した若手教員たちが、本当に懇切丁寧に授業案を作ってくれて、なるほど、Microsoft Teams 上でパワーポイントの共同編集ってこうやるのかっていうことを、全員が学んでいったのです。

実は基礎ゼミシラバス作成は、春休みに一日がかりで、スチューデントアシスタント(SA)も含めて全員でやっています。大方針を決めて、次に担当教員とSAがユニットごとに分かれて、そのユニットでどういうことをやっていくか、概要や到達目標が何かということを決めます。その後、具体的な教材についてはユニット担当者が作成します。

こういう協働体制のおかげで、遠隔授業も非常にうまくいったと思います。そのおかげで、私自身、びっくりするくらいスムーズに授業は進行できました。

最初に Teams でゼミをやった日は、忘れもしない4月22日でしたが、私が想像する以上の内容でした。コマシラバスに非常に細かく授業の進行状況が設計されていたおかげで、自分自身がやってみて、こんな

遠隔授業の方法があるのかと感激したんですね。そこで、すぐさまオンラインオープンキャンパスをやろうと提案しました。対面でのオープンキャンパスは中止になったんですけど、今こそオープンキャンパスをやろう、宣伝というより学生がこれだけ頑張っている姿をぜひ高校生に伝えて元気出してもらおうと。こうして、職員や学生たちと準備を進めて、5月12日にオンラインオープンキャンパスをやりました。

ところで、オープンキャンパスの準備をしていると、スタッフの学生が「実はうちの親が遠隔授業を後ろで見たりするんですよ。この授業は面白いとか言ったりして」と言うんですね。ちょうど、学費返還問題とか色々微妙な問題が全国の大学で取沙汰されていたもの

から、むしろ保護者に実際に遠隔授業を見ていただければいいんじゃないかと思い、6月から7月にかけて保護者対象のオンライン講座を始めました。外部の社会人も参加OKということにした結果、90人ぐらい申し込みがありました。初回ではZoom講座をやったんですけど、学生向けの授業と同じように90分間を構造化して、何分間で何をやるっていうことをコマシラバスできっちり決めました。反響はすごく良く、「このような場に参加することで、自分の子どもが北陸大学の経済経営学部でよかったと思える度数が上がる気がします」といった声が寄せられました。

コマシラバスといえば、本学部ではオープンキャンパスの模擬授業もすべて担当教員はコマシラバスを作っています。この模擬授業はこれまで毎年新任の先生にやってもらっていました。例えば新任の先生が4名来たら、4回のオープンキャンパスの模擬授業はその先生たちに担当してもらいます。新任の先生はやっぱりコマシラバスを書くことに四苦八苦されます。学生スタッフの動きも想定しつつグループワークも組み込んで設計しないといけないので大変なんです。それをアドバイスしながら、基礎ゼミであんな風にコマシラバスを作ってる今の先生たち偉いよねって、そんな風になってくださいよねっていう話をしたりしました。また、オープンキャンパスに来た高校生のかかなりの割合が志願者に繋がりますよね。それもあってかなり濃い内容の模擬授業をやるものだから、ある先生が、「うちのオープンキャンパスは、もはや入学前教育じゃないか」と言ったんですね。なるほどと思って、うちはオープンキャンパスの実施回数が多いので、それをFDと入学前教育の場にしてしまおうと思ったのです。

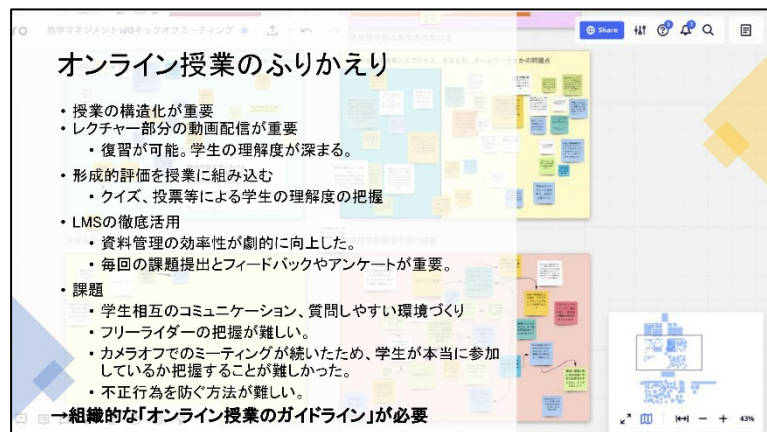
ですから、遠隔授業が始まっていきなり何か新しいことを始めたというよりは、やっぱりそれまで作ってきた



協働体制が遠隔授業で生きたと思います。協働体制があったおかげで、全体として先生たちみんながきちんと遠隔授業をやることができたし、ある意味助け合っていく雰囲気があったため、気持ち的にも楽しかったということがあります。

ここで、遠隔授業を全体的に振り返ってみます。第一に、やはり組織的な遠隔授業のガイドラインが必要だということです。学部としてどういう遠隔授業をやっていくかということを決める必要があります。例えば、情報リテラシーとかプログラミング系科目なんかは明らかにPC画面上で完結するオンラインの方がいいですね。こういったスキル修得系の授業はオンラインの方が効果が高いんじゃないかという話がありました。翌年度からは、学修効果が高いと思われる授業を事前に遠隔授業として指定することにしました。

次に、90分間Zoomのみといった授業は難しいと思います。Zoomは事前にレクチャー部分を収録するために使っている先生もいます。授業の導入部分は同期型で開始するとしても、その後、「このレクチャーをこのURLから見てください、そのレクチャーを元にこの課題に取り組んでください」、という指示を出して、残りの時間は学生の質問に



個別対応するような形で、途中から半ば非同期型に移行するような授業スタイルもあり得ると思います。

対面授業でも、レクチャー部分を動画で収録する先生もいます。実はその方が効率的なんですよね。レクチャーって教室でやると非常に冗長になります。例えば60分のレクチャーは事前収録すると40分ぐらいで終わっちゃいます。そうすると、余った時間で質疑とか追加課題をやらせようとか、プラスアルファで色々なことができるようになります。レクチャーを収録しておく、復習の時間に学生が聞き逃した部分を巻き戻したり、わからないところは繰り返し再生できるし、1.5倍で再生することもできます。今までは、理解の遅い学生層に合わせてレクチャーしていたと思うんですけども、事前収録しておけばそれをする必要がないんです。

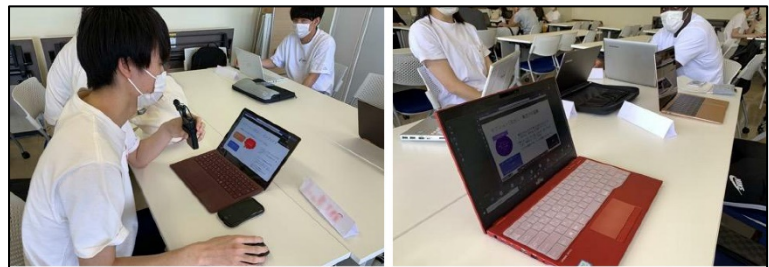
また、遠隔授業では、manabaのようなLMSをどこまで徹底的に活用するかが大事だと思います。ペーパーレス化を進めながらも、学生へのフィードバックを充実させられます。私自身、もはや対面授業で紙の教材を配布したりすることはほぼありません。LMSを徹底的に使うと、アンケートにしろ、小テストにしろ、かなりことができますよね。ワークシートを紙じゃなくてフォーム形式で作っておけば、学生の提出状況も把握できるし、フィードバックも簡単です。

ある先生は、今週この授業のために何時間学修しましたか、というアンケートをGoogleフォームなどを使って最初にリアルタイムでとるようにしたそうです。学生も10分とか30分とか1時間とか回答するわけです。オンラインツールを使うと毎週質問して、即時的にフィードバックすることが全然苦にならないということです。これを多くの授業で導入していけば、時間外学修のコントロールもできるようになります。

ただし、こういうことは本当はもっと早くからできてたはずなんです。我々が面倒くさくなってやろうとしなかっただけです。それが、今回のコロナによって一気に進んだと言えると思います。だから、コロナが終息した

としても、LMS を徹底的に使ってフィードバックを即時的にとり、さらに学生にそれをフィードバックしたりという仕組みを授業の中に組み込んでいくことは、今まで以上にやっていく必要があるのではないかと思います。

あとは、対面授業でもなるべく接触を減らすためには、模造紙とかポストイットとかプロッキーとか一切使わずに協同・協調学習をする必要があります。例えば、パワーポイントは共同編集できますから、4~5人で1グループになって1つのパワーポイントファイルを共同編集すればいいんですよ。



- Teamsでパワーポイントファイルを共同作成
- 発表は、発表者がパワポ画面を共有してその場で発表
→グループワーク中の会話や接触を減らすことが可能

Microsoft Teams を使えば、誰かのパワ

ーポイントをクラス全員に画面共有すればその場ですぐさまプレゼンもできます。そうすると、教室でプレゼンする際に、いちいちプロジェクタにケーブルで接続する必要がないんですよ。対面授業でもオンラインツールを使うと、便利なことができます。

あとは、ゼミの時間を使って合同講座とかをやる時がありますよね。例えばキャリア講座で大教室に学生を集めて外部講師がしゃべるとか。そういうときって、大教室に集めたら学生が寝ちゃいませんか？



ハイブリッド・ハイフレックス授業

- 外部講師によるキャリア講座。例年だと大教室に集合。今年はゼミ教室から移動せずに実施。
- Zoomで配信。講師は会場マイクとPCマイクを併用
- モニタで音声と画像共有。学生はmanabaから資料をダウンロード(スクリーンは、現在の画面がどれか確認するため)。Manabaのアンケート機能でワークシート記入。

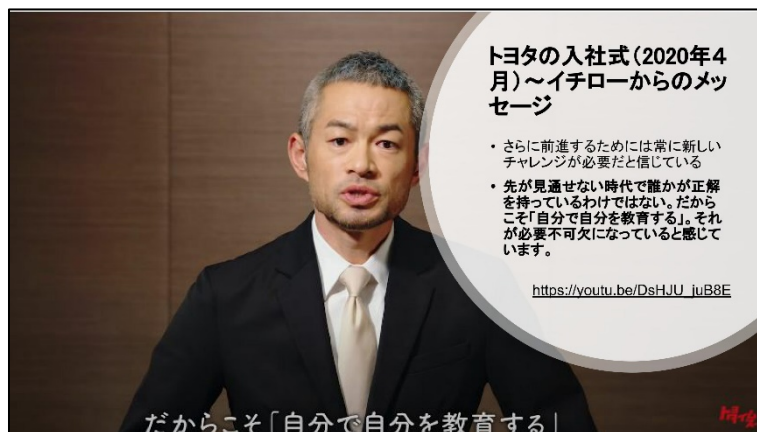
それを今回、合同ゼミでも教室を一つにしないで、各ゼミ教室に Zoom で

配信するようにしました。欠席した学生は遠隔で参加できます。資料はLMS上でPDFを配布し、ワークシートも今まで手書きのものをmanabaのアンケート上に項目を作って記入してもらうようにしました。いくつかの教室をまわってみると、ほぼ全員の学生が寝てないですよ。話を聞きながら自分なりにPDFの資料を行ったり来たりしながら、自分なりにワークシートつまりmanaba上にガンガン書いてるんですね。今までは、一斉授業の多くは、みんな同じことを同じタイミングでやらせてたんですけど、それが多くの学生にとっては退屈な時間だったということですかね。だから一斉授業にしても、ただ単にボケーッと話を聞くだけじゃなくて、授業内の課題を増やして行って、とにかく学生に色んなことを書かせるようにしていくと、全然学生が寝ないということが起きました。こういったノウハウは、ハイブリッドと言いますかハイフレックス型の授業をすすめる上でも参考になると思いました。

今後の大学教育の課題

もう時間もきたので、そろそろ終わりにさせていただきたいと思います。最後に申し上げたいのは、遠隔授

業と一見関係なさそうな内容ですが、「生涯学び成長し続けられる力」とは何かということ。これに関して、今年のトヨタのオンライン入社式の中で、イチローがメッセージを出しています。「先の見通せない時代、誰かが正解を持っているわけではない、だからこそ自分で自分を教育する。それが必要不可欠になっている」と。



大学教育でもやはり、自分で自分を教育するというモードをいかに学生に身につけさせていくかということが本当に大事であると改めて思いました。特にオンラインで非同期型の授業をやっていく場合には、自分なりの学習スタイルを確立していたり、自己決定力が高い学生はうまくやれるんですが、そうじゃない学生が脱落がちでした。前期のGPAを見ると、そういう傾向が感じられました。自己調整型学習能力といいますが、そのスキルがやっぱり大事になってくるということです。

この辺は時間もきたので飛ばしますが、一言でいえば、メタ認知がとても大事になってくるということです。教え込むだけじゃなく、今自分は何を学んでいるのか、そしてこれから何を学ぼうとしているのかということを学生に意識させる。それだけでもだいぶ違ってくると思います。学修成果を学生自身が自分の言葉で説明できるようになること、そうい

った力を学生につけていくことが、遠隔授業の効果的な導入を支える大事なファクターだと思っております。


少し時間を超過してしまったかもしれませんが、以上で私の話を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

(司会：大塚 豊 副学長) 山本先生どうもありがとうございました。非常に限られた時間内にポイントを絞ったお話をいただきました。本学と比べても、準備の段階からも同じようなご苦労があったのだなと様々な共通点も感じました。私は個人的に非常に印象深かったことは、「コマシラバス」という言葉で表現されましたけれども、初等・中等教育で言えば、指導案のことでした。教職課程の学生には指導案の書き方を徹底して教えるのですが、我々大学教師はつい行き当たりばったり、専門家ということでその時の流れの中で授業を展開してきたところもあると思います。今後オンラインの授業をやっていく時はやはりきめの細かい計画、授業計画、指導案というものが要るということを先生のお話を伺いながら感じました。そのほか保護者に対するオンラインでの講座なども非常に良い試みだなと思いました。SA も含めたオンラインでの打ち合わせは、

自己調整学習スキル

- ・「メタ認知」
 - ・ 自分が何を知っているかについて知っている
 - ・ 自尊感情、自己効力感
- ・「目標設定」と「行動」
 - ・ 「目標設定」…実現のための効果的な手段の計画
 - ・ 「行動」…自己規律、努力、時間管理、援助要請など
- ・「自己評価」
 - ・ 自己調整学習スキルの自己評価
 - ・ 授業科目の知識とスキルに関する自己評価

→「省察的実践家」…「学び方を学んでいる人」「自らの経験から独自の知見(持論・自論)を紡ぎ出せる人」



い・B・ニルソン(2017)『学生を自己調整学習者に育てる』北王子書房
ドナルド・ショーン(2007)『省察的実践とはなにか』風書房

こういう風にやらねばという感じがいたしました。個人的な感想を話させていただきました。予定の時間はきいていますけれども、先生がちょうどいい時間にまとめてくださいましたので、あとお一人お二人、質問をお受けできると思います、いかがでしょう。今までの先生のお話しでご質問などがありましたらどうぞ。

(山之上 卓 工学部長、情報工学科教授) どうも今日ありがとうございました。工学部長情報工学科の山之上と申します。manaba をすごくたくさん使って大変便利だったという話がありましたけれども、manaba の場合は例えば書いてそれを他の学生が見れるためには他みんながページ読み込みをもう一度しないといけなかったりして、それでリアルタイム的なディスカッションみたいな、何かそういう細かいですけどその辺で工夫されたこととかあったら教えてもらえませんか。

(講師：山本啓一先生) はい、うちはオンラインツールとしては Microsoft Teams を使っていますので、manaba は課題提出用の LMS としてしか使ってないです。共同編集とか共同作業するのに manaba はちょっと難しいと思います。あと、Miro っていうオンラインツールがあって、あれは無料でアカデミックライセンスを取れるようになってまして、模造紙とポストイットのような使い方ができるので、ああ言ったものをお使いになられてもいいのかなという風に思います。

(山之上 卓 工学部教授) ありがとうございました。あと、絶対遠隔授業なんかやだっていう先生もおられたんじゃないかと思うんですが、それはどのようにされていたんでしょうか。

(講師：山本啓一先生) 遠隔か遠隔ではないかというのは、今のところ分散登校だとか教室のキャパ問題だとか、そういった理由で学部で定めていますので、個々の教員には決められません。もちろん実際のところは少し調整しています。

(山之上 卓 工学部教授) どうもありがとうございました。

(司会：大塚 豊 副学長) そのほかにありますでしょうか。もうお一方。よろしいでしょうか。それではまた全体討議の時にも時間を取りますので、そこでまとめてご質問いただければと思います。山本先生ありがとうございました。もう一度拍手で感謝したいと思います。

続きまして、これから学内の事例報告をいたしますが、5分ばかり休憩を、どうしても休憩をとられる先生もいらっしゃいます。5分休憩をいたします。2時ぴったりに再開いたします。

第二部：事例報告

遠隔授業アンケート結果報告「令和2年度遠隔授業アンケートの実施とその結果」

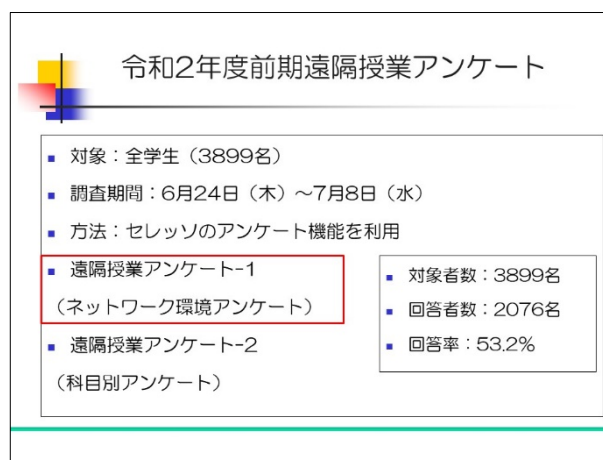
佐藤英治 大学教育センター教育開発部門長

(司会：大塚 豊 副学長) みなさまお戻りになっていらっしゃいますでしょうか。それでは約束の2時になりましたので早速第2部の事例報告に移りたいと思います。最初は大学教育センターの教育開発部門長でもいらっしゃいます薬学部の佐藤英治先生から令和2年度遠隔授業をうけてのアンケート調査の実施と結果についてご報告をいただきたいと思います。佐藤先生よろしくお願ひいたします。

(佐藤英治 大学教育センター教育開発部門長、薬学部教授) はい、ありがとうございます。それでは今年度前期に実施しました遠隔授業アンケートの全体像についてご報告させていただきます。本学初めの大規模な遠隔授業が始まりましたけれども、果たしてそれがうまくいっているのかどうなのか。この最初のスライドにアンケート1って書いていますけれども、こちらは学生のネットワーク環境についてのアンケート調査です。いくら大学がいいコンテンツを提供したとしても、学生がネットワークを使えなければ非常に困ったこととなります。アンケート1では、実態調査として、学生はネットワーク環境でどのような問題があったのか、あるいはなかったのかという調査を行いました。アンケート2は、遠隔授業の科目別の調査でありまして、遠隔授業を受けた学生の率直な意見を授業担当の先生方にフィードバックすることが目的です。私も遠隔授業を初めて実施しましたが、果たしてこの方法でいいのか悪いのかっていうのが自分自身でもよくわからないんですよ。そこで、学生の思いを教員にフィードバックするために実施いたしました。

それではみなさま、アンケート1の結果概要から説明いたします。対象者数は3,899。回答者数は2,076。ざっくり言いますと、4,000名の学生に対して回答者が半分、回答率が50%ということでございます。

このスライドには、総括1って書いてありますけれども、こちらの詳細な生データですとかグラフとかというものはすでに先生方にはメールで送信させていただいておりますので、詳細はそちらで



ご覧いただければと思います。このスライドは、全学レベルでの全体的な結果ということでございます。6月21日までの本格的な遠隔授業では、まず学生は遠隔授業をどこで受講したのかという調査をしました。本学の学生は、大学近郊の実家あるいは下宿で受講したのが約8割、実家に帰省して受講したのが17%の約2割ということになります。通信環境ですけれども、Wi-Fiを使用した学生は92%、スマホ等の packet 通信を使用した学生は7%でして、意外とWi-Fiを使用できる学生が多いなっていうのが個人的な感想です。使用端末ですが、PCが72%、スマホが22%ということで、約2割の学生がスマホを使って遠隔授業を受講していたということになります。通信上限が有る学生は22%、無い学生が78%で、上限がない学生が多いのですが、上限がなくても使いすぎますと速度制限がかかる場合が多いですので、その解釈には注意が必要です。さて、インターネット環境に限定したトラブルですが、15%の学生に認められました。その15%の内訳ですが、PCが古いですとか機器の不良によるものが10%程度で、通信速度、通信量に起因するものが5%程度ということでございました。

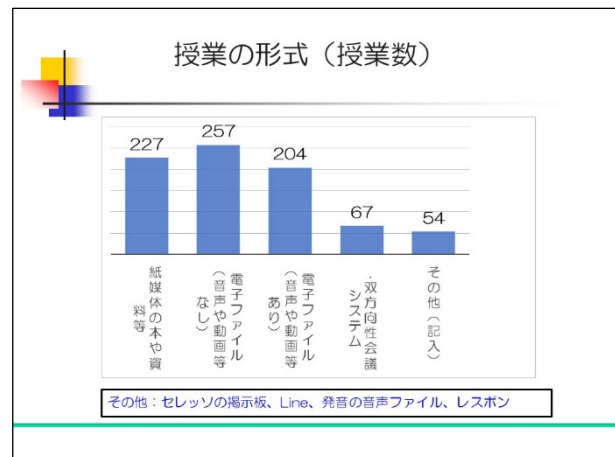
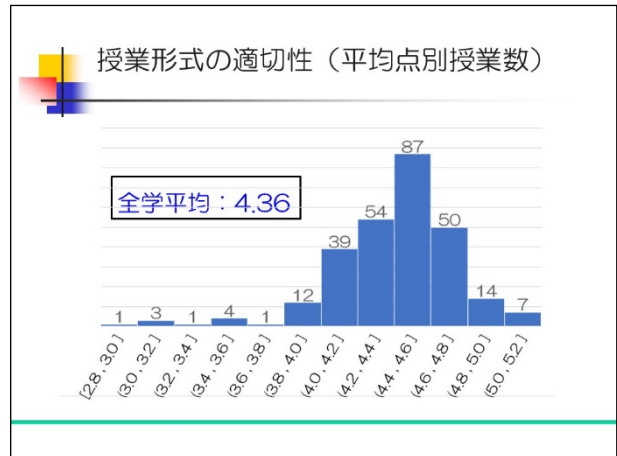
次のスライドですが、「帰福後」と書いてありますけれども、これはどういうことかと言いますと、17%の学生が帰省先で遠隔授業を受講しましたが、そのあと大学近郊の下宿に戻ってきて遠隔授業を続けている学生がいます。この帰福後の下宿時でのアンケート結果ということの意味しています。基本的には全学生アンケートと同じ傾向ですが、若干変わっているところが、全学生アンケートと比べて、Wi-Fiを使用できる学生とPCを使用している学生の割合が減っていることです。これらの学生のスマホ使用率は約3割に上がって

ました。また、インターネット環境に起因するトラブルを体験した学生の割合は全学生のものに比べて増えています。従いまして、やはり、下宿でのインターネット環境が整っていない学生が一定の割合で存在しているということになります。

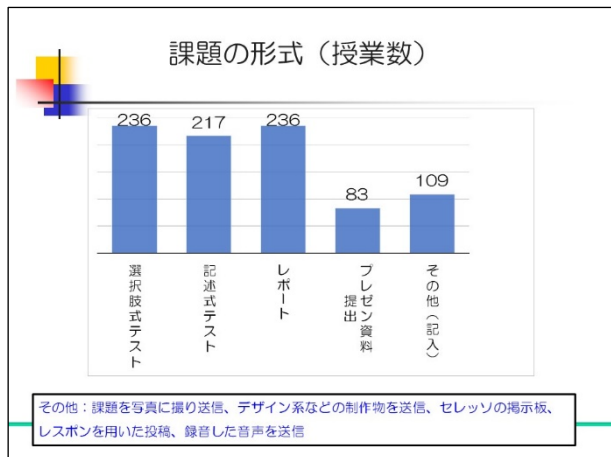
次のスライドは、「遠隔授業を受ける際のネットワーク環境について、困った点があれば自由に書いてください。」というアンケート結果です。代表的なコメントを紹介しますと、Zoom を使用した授業につい

ては、賛成意見と反対意見がございまして、賛成意見は非常にリアルでわかりやすいというもの、反対意見は通信が安定してないのでこの授業形態はやめてもらいたい、というものがありました。大学内のネットワーク環境については、ゼルコバ Wi-Fi がつながりにくくなったので、学内での遠隔授業の実施も困難さが伴ったという意見が出ております。また、女子寮のネットワーク環境が良くないというものもありました。「この時間にレポート提出しなさいって言われても、作業はしているんですけど、Wi-Fi が繋がらないので時間内に出せませんでした、なんとかしてもらえませんか」というものもございました。やはり、学生のインターネット環境は様々なため、安易に課題の時間制限を設けたり、リアルタイム授業のみを配信するべきではないことだと思います。これらが全体像としての学生の意見ということになります。

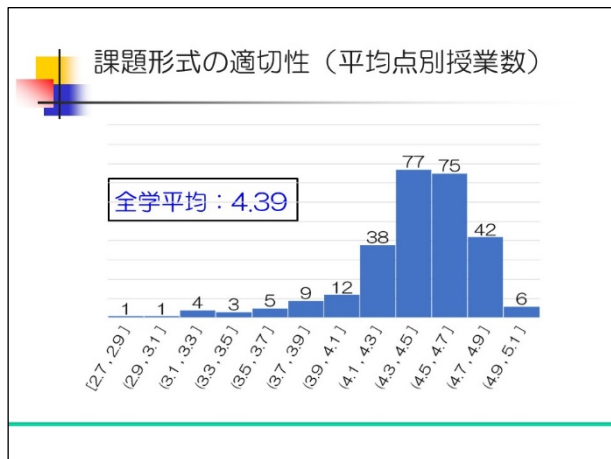
それでは続きましてアンケート2のスライドです。アンケート2は科目別アンケートですが、個々の結果につきましては各先生方に学科長を通してフィードバックされているかと思しますので、これにつきましても全学レベルでのマクロの視点からの全体像をご紹介させていただきたいと思っております。延べ対象学生数は17,511、回答者数は10,156、回答率は58%、対象の授業科目数は280でございました。まず1つ目の結果ですが、「授業の形式」に対する学生の回答です。棒グラフの左から、「紙媒体の本や資料等」、「電子ファイル(音声や動画なし)」、「電子ファイル(音声や動画あり)」、「Zoom等の双方向性会議システム」、「その他」となっています。「その他」には、ゼッソの掲示板やLINE、発音の音声ファイル、レスポ等が含まれます。先ほど280の授業数と言いましたけれども、1つの授業で複数の手法を用いている場合もありますので、総数としてこれだけの数の授業形態が実施されたということになります。こちらを見てももらいますと、左の3つがメインになりますけれども、本学の遠隔授業では、全体の3分の2が音声や動画なしのコンテンツであったということになります。



次のスライドは「課題の形式」に対する学生の回答です。棒グラフの左から、「選択肢式テスト」、「記述式テスト」、「レポート」、「プレゼン資料の提出」、「その他」となっています。「その他」には、「課題を写真に撮ってメールで送信」ですとか「デザイン系などの制作物を送信」等がございました。こちらの結果も、基本的には左の3つがメインでして、それぞれほぼ同数でした。本学の遠隔授業では、このような課題が主として使用されていたということになります。



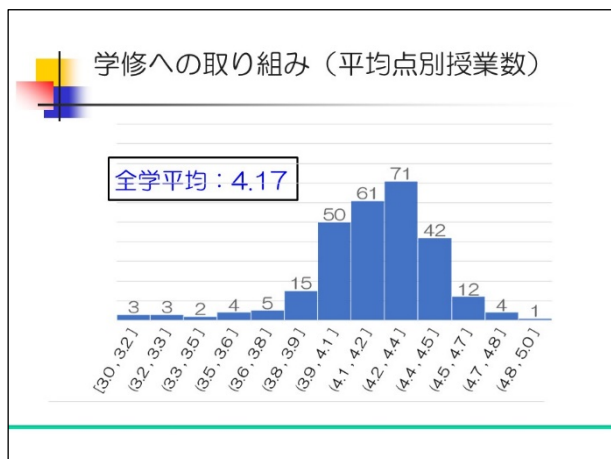
次に、「授業形式の適切性」の回答をヒストグラムにまとめてみました。横軸は授業形式の適切性の平均点を表しておりまして、満点は5点になります。横軸の一番左に「2.8、3.0」と書いていてその上に数字の1が記載されていますが、これは、平均値が2.8点から3.0点の間であった授業科目が1つあったことを表しています。平均値4.4点から4.6点の授業が最も多く、授業数としては87ありました。



また、全学平均では4.36点ということになります。これが授業形式の適切性に関する学生の意見のということになります。個人的にはかなり高い値だと思います。

引き続きまして、「課題形式の適切性」の回答をヒストグラムにまとめてみました。レポートなど様々な形式がありましたけれども、適切性はどうかと言いますと、こちらでも非常に点数が高く、全学平均で4.39点でした。おおよそ4.3点から4.7点あたりが最も多いという回答になってございます。

次に「学生の学修への取り組み」の回答をヒストグラムにまとめてみました。これは学生自身の自己評価になります。こちらの全学平均は4.17点で、学生の自己評価が4点以上あるということになります。



平均点が算出される設問がこれで最後なんですけれども、「教員によるフィードバックやサポート」についての回答をヒストグラムにまとめてみました。このヒストグラム見てお分かりになるように、高得点から低得点まで広く分布し、今までとは少し違って横に伸びております。学生による評価の中で、教員による差が最も大きいものとなりました。最も多い回答は平均値3.8点から4.0点で、全学平均は3.91点ということでございます。

平均点を算出した上記4つの観点、すなわち「授業の形式」、「課題の形式」、「学生の学修への取り組み

平均点を算出した上記4つの観点、すなわち「授業の形式」、「課題の形式」、「学生の学修への取り組み

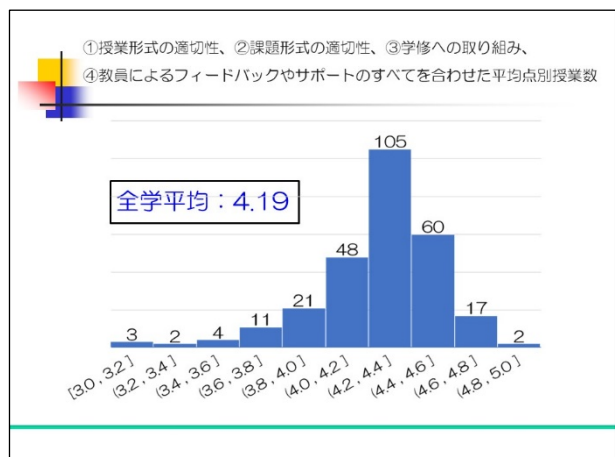
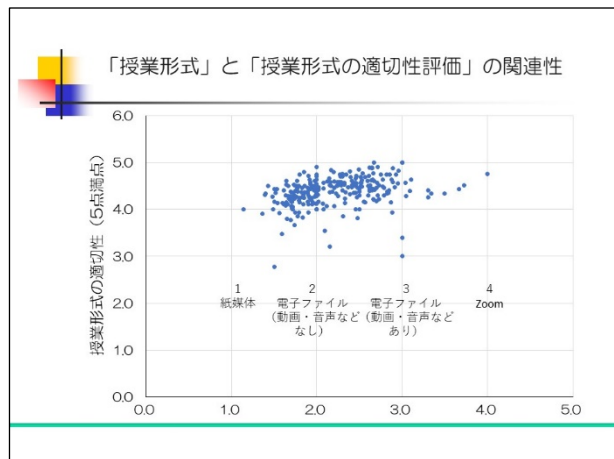
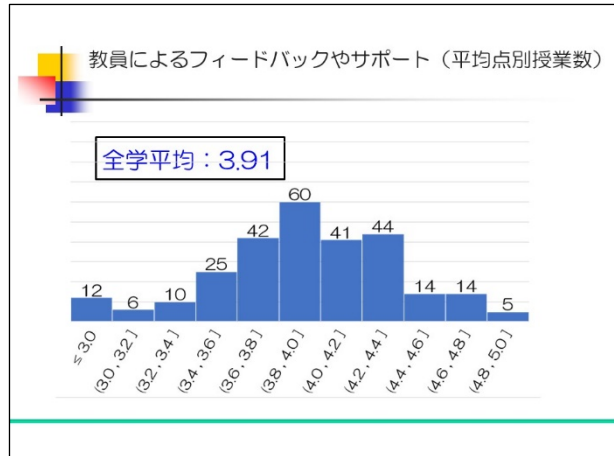
み」、「教員によるフィードバックやサポート」の点数を総合した授業平均点としてヒストグラムを作成しますと、全授業の平均点は、4.19点、ヒストグラムの分布はこのような形で、最も多い回答は4.2点から4.4点という結果となりました。

さて、このグラフですが、あまり意味はないかもしれないですけど、「授業形式」と「授業形式の適切性評価」の関連性について、もしかして紙媒体のみより Zoom 等を使ってよりアクティブな授業形式の方が適切性の評価が高いんじゃないかなと思って、とりあえずこれらの相関を見るために散布図を作成してみました。紙媒体のみを使ったものが例えば1点、動画・音声なしが2点、動画・音声ありが3点、Zoom が4点と重みづけた時に、各授業科目で複数の授業形式を使っていますから、例えば、Aの科目は平均しますと1.5点とかBの科目は平均すると3.5点とかっていう科目ごとに点数が出てくるんですね。横軸がその科目ごとの点数で、例えば横

軸の4.0の位置に一つだけプロットがありますけど、これはZoomだけを使った授業っていうことになります。3と4の手法を半々に使った時は3.5のところにもその授業は位置付けられるということになります。さて、結論から言いますと、もしかして右上がりの線になるのかなと思ったら、実はそうならなかったんですね。アクティブな授業の方がより適切であると単純に判断されるものではなくて、おそらくこのグラフから言えることは、授業の形式だけではなく、教員の授業の進め方やサポートの仕方等、学生はこれらを総合的に受け止めて授業形式の適切性を判断しているのだらうと思われま

す。総括ですけれども、基本的には授業形式の実態としては、音声・動画等がないものがやはり多かったということ。それと、授業の課題ですけれども、選択肢式、記述式、レポート形式が多くを占め、それぞれはだいたい同数でありました。

今回、平均点を算出した4つの質問項目に関して言うと、基本的には4点以上で高得点なのですが、教員による学生へのフィードバックやサポートは若干低めで、教員間のばらつきが大きい。ただ本学の場合、毎年の授業評価アンケートで、基本的には全ての質問項目で平均点が4点以上っていう、なぜだか分かりませんが非常に高い点数となっています、今回も高くなっているんですけど、これは本当に



学生が満足しているのかどうかというのは個人的にはわかりません。

フリーコメントで評価の高かった授業の特徴、私の主観でしかないのですが、教員によるサポートがしっかりしている、毎回添削をしてくれる、毎回レポートのコメントをくれるとか、音声や動画での解説が非常にありがたかった、あるいはワードで解説の文章をきっちり送ってくれたから見直すのに参考になりましたっていうのが多かったように思います。薬学の場合ですけど、アンケート結果では、音声・動画がない授業でも、授業形式の適切性は基本的に4点以上あったんですね。但し、フリーコメントのところでは、音声・動画が欲しいって必ずどこかにコメントがありました。やはり点数だけではなく、フリーコメントをちゃんと教員がキャッチングして、今後の授業の改善に結びつけていくことが重要だと思っています。

先ほどの散布図で見ましたけれど、授業形式と授業形式の適切性評価の間には、単純な相関はないのかもしれないし、これも仮にやってみただけなのであまり意味がないかもしれません。

あと30秒しかありませんが、先ほど各授業科目を総合点数化してヒストグラムを示しましたが、点数の高かった授業科目の中から、この後に3名の先生方、村上先生が「音声・動画なし」を主体としたもの、香川先生は「音声・動画あり」を主体としたもの、佐々木先生が「Zoom」を主体としたものについて実践報告をお願いします。非常に高得点の先生方に今からお話していただいて、みなさまと情報を共有できればと思っています。私からは以上です。ありがとうございました。

(司会：大塚 豊 副学長) 佐藤先生どうもありがとうございました。次の登壇者の紹介までやっていただきましたので、すぐ次へ移ることができます。第2報告は今ご紹介にありました文字情報をあげる方式の村上先生、パワーポイントを用いた授業の成果と課題ということで、先生のご担当の授業「現代ヨーロッパ事情」についてお話しいただくことになります。それでは村上先生よろしく願いいたします。

パワーポイントを用いた遠隔授業の成果と課題：〈現代ヨーロッパ事情〉の実践例

村上 亮 人間文化学部人間文化学科准教授

(村上 亮 人間文化学部人間文化学科准教授) 村上でございます。私は今回の遠隔授業では、あまり新しい技術は使わずに授業を進めてきました。現代ヨーロッパ授業の科目の概要についてはレジюмеに書いたとおりです。私は学科で世界史を担当している教員ですが、本講義の特徴は世界史というより現代の欧米社会の問題を取りあげた点にあります。例えば移民の問題、ブレグジット、ポピュリズムなどの個別の事象について歴史的な背景をふまえながら論じました。現代政治というと「難しい」というイメージを持たれがちですが、それをいかに振り払うかということに注意するとともに、歴史の面白さを示したいと考えていました。そしてもう一つの点としては、先ほどのご報告にもありましたが、将来が見えない、混迷する現代社会を生き抜くため、現代社会を見抜くためのヒントを提示したいと考えながら授業を進めてきました。主な授業資料については先ほど説明があった通り音声なしのパワーポイントの資料、パワーポイントの資料に対応した、授業全体の流れを整理するためのレジюме、授業内容に関わる新聞記事、雑誌記事などの補充資料を用意しまし

た。

私が今回遠隔で一番苦労した点は、普段の授業で私が導入の代わりに用いるドキュメンタリーなどの映像資料が著作権の関係で使えなかった点です。そのため、できるだけ図表や写真を増やすことで対応しました。ただ読みやすさを考慮して、いたずらに文章を増やすのではなく、パワーポイントではだいたい8行以上は入れないようにしました。あと少しの工夫ですが、こちらからの問いかけをする時にはアイコンなども使いました。

次に授業実践の一例を具体的にご紹介したいと思います。まず1点目、受講者のコメントの活用についてです。かつてのソヴィエト連邦のスターリンという指導者を取りあげたときの授業の説明を具体的にあげたいと思います。スターリン、どこかで名前を聞かれたことがあるかもしれませんが、独裁者として知られており、ドイツとの戦争に勝利し、ソヴィエト連邦をアメリカにつぐ世界強国に押し上げた反面、数千万人の自国民を粛清、虐殺したことで知られています。この人の評価は現在もお二分されているのですが、授業の中では正反対の評価があることを示したうえで、例えば専門書や新書などの抜粋をコラムとして引っ張ってきました。つまり、どこの国であれ国家の内側から見た歴史評価と外側から見た歴史評価に違いがあって、どちらが正しいかどうかは容易に判断しえないこと、その理解の相違が軋轢を生み出すことを紹介しました。それに対して受講者からは次のようなコメントが返ってきました。

若干読みにくいところもありますが、この受講者が書いてくれたように、今回の授業の趣旨、つまりスターリンの歴史あるいは共産主義の歴史を通じて現代の中国や私たちが異質だと思っている国を頭ごなしに批判するのではなく、まず異質であることを受け止め、そのうえで相手の本質を理解することの大切さを書いてくれました。また、このコメントを次の授業の時に紹介し、クラス全体でこのコンセプトを共有することにより、授業の狙いを分かっていなかった受講者にも理解してもらえるようにしました。

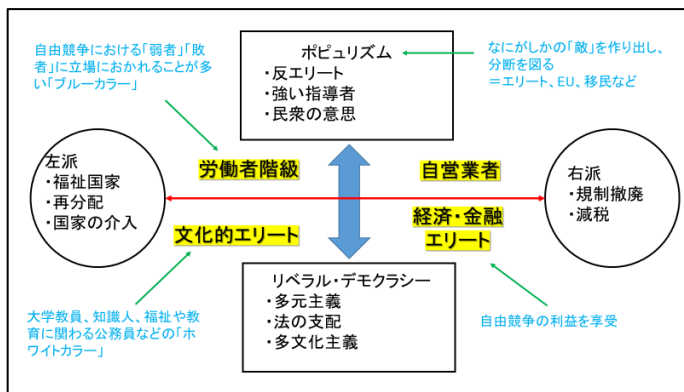
「スターリンを取りあげた」その狙いについては、受講者の一人が私の意図を言い当ててくれていたので、紹介します（一部割愛しました）。

→「今回の授業の趣旨はこのスターリンの歴史(共産主義の歴史)を通して、現代の中国や私たちが異質だと思っている国についての国際的理解のきっかけを作り、そこから、異質とまではいかないものの背景が違う人(や国)への理解(肯定的見方だけをするのではなく、様々な点からその人(や国)を見るのが重要)を始めることの大切さを学ぶことではないかと思いました。」

2点目はアネクドートの活用です。現代社会を取り上げると専門用語が続出しますので、それを少しでも分かりやすくするために使いました。アネクドートはロシア版のジョークのことです。例えば社会主義という用語は、専門家でも簡潔に説明しにくいものです。学生への説明において難しい言葉を並べてもなかなか把握してもらえないため、こういうものを使っています。読み上げてみると、「社会主義体制はいかなる矛盾を抱えているか。我が国には失業はないが誰も働いていない。誰も働いていないがみんな給与を受け取っている。我が国ではみんな給与を受け取っているがしかし給与で何も買うことができない。給与では何も買うことができない。全てのものを我々は持っているが何も満足していない。しかしみんな困りながら、投票的にはみんなが賛成」と。これでも完全に理解できているのかどうかは分かりませんが、学生たちからは何となく言いたいことがわかりました、という反応がありました。

また私の遠隔授業では文字が主体になってしまったため、このようなアネクドットの説明に加え、参考文献を援用しつつ、以下のような図を多用しました。

これは現在の政治を取りあげた際、大衆迎合主義と訳されているポピュリズムを説明するために、このような図をいくつか作りました。これらは全部パワーポイントとレジメの両方に載せていますが、レジメには四隅に書いてある文言は載せていません。学生が自分で整理する時に自分たちで書き込むためのものです。



3 点目は、授業の中で具体的な素材を使うことです。例えば以下のような図像を使っています。これはニューズウィーク誌が掲載したアメリカのトランプ大統領による Twitter 政治を風刺したものです。スライドの中に問いかけを書いています。なぜかといえば、この科目は1年生も履修しておりますが、いきなりコメントを書

2. ③ 具体的な素材と「問いかけ」

「ハゲタカも真っ青」

ハゲタカの後ろにはツイッターのマーク
一何を言いたいのだろうか？

けずに苦勞する 1 年生がいます。それをふまえ、何か書きやすい素を仕込んだ次第です。実際、1 年生が以下のコメントを書いてきました。「確かにトランプ大統領はあれをするこれをする希望を持たせるような発言をいくつもしている。ただ発言だけにとどまっている気がしてならない。やるやる詐欺はほどほどにしてほしい。最後ツイッターの富裕層の支持によって獲得したせいで、脳がマッシュマロのようになってしまったのだろう」と、なかなか辛辣なことを書いてきました。このようなコメントは他にもありました。

もう一つだけ実例をあげておきましょう。以下のものは、移民排斥を訴えるスイスで使われたポスターです。

白い羊と黒い羊が書かれています。真ん中に「Sicherheit schaffen」(安全を確保しよう)というドイツ語が書かれています。スイスを象徴する羊が 4 匹、白い羊が 3 匹、黒い羊が 1 匹おります。黒い方が、犯罪や社会不安の元

スイス国民党による「白い」羊と「黒い」羊

Sicherheit schaffen = 安全を確保しよう、の意味。

※このポスターに見て取れる問題は何かだろうか？

学生のコメント:「スイスのポスターを見て思ったのは、やはり何かしらの共通した敵を持つことは団結力を生むこと、そしてそのことが現代でも使われていることです。

凶になる外国人に見立てられており、これを追い出そうというものです。このポスターに対する学生のコメントは下に載せています。つまり何かしらの共通した敵を持つことは団結力を生むこと、そしてその手法が現代にも使われていることです、と。このようなコメントに対しては適宜リプライするとともに、次の授業で紹介しています。

4 点目は、現代社会世界との関連です。今回は授業の構想段階では予想していなかった新型コロナの間

題が起きてしまいました。今日の社会を考える授業ですので、コロナ問題をなんらかの形で授業に絡めたいと考えました。そこで授業開始前のアンケートでコロナ対策について簡単なレポートを書いてもらったうえで、期末レポートもコロナ問題としました。補助資料として日本経済新聞に掲載された世界的に有名な歴史家ユヴァル・ノア・ハラリの記事を用意しました。コロナへの立ち向かう必要があるなかで、市民による感染拡大の抑止を目指すにおいて、民主主義がどのように機能するべきかというのを考えてもらいました。これについては、最後に学生のコメントを紹介したいと思います。

次に、私が遠隔授業において留意した点についてお話しすると、次の5点があります。まず1つは配布資料の工夫です。映像資料に変わる図表を充実させる一方、情報が多くなりすぎないように留意しました。ただ毎回のスライドが50枚ぐらいになってしまったのは反省点の一つです。2点目は、受講者の理解度の把握です。私は、普段の授業からコメントシートを書いてもらい、それを次回の授業時にレビューする方法を続けてきましたが、遠隔ではその作業に余分に時間をかけました。質問についてはできるだけ質問者個人にリプライし、また全体にかかわるものは授業の際に振り返りました。なぜそうしたのか。やはり遠隔だと授業を受けている顔が見えない。学生がわかっているのかどうなのか、それを確かめておくことは非常に重要だと考えたからです。コメントを書く時には良かった点を誉めるだけではなく、異なる見方もできるよね、こういう論点があるよね、などの考えの幅を持たせることにも注意しました。同じ説明をしても、わかる学生もいればわからない学生もいる。もちろん完璧にできたわけではありませんが、忍耐強く質問に答えるように努めました。

3点目はコメントの取り上げ方です。受講生のなかには、毎回すぐれたコメントを書いてくれる学生が複数おります。ただ紹介が偏らないように、できるだけ多くの受講者をローテーション的に取り上げることにしました。それはできるだけ多くの学生に対して、ちゃんと読んでいますよ、というシグナルを出すことが大事だと思ったからです。4点目は、先ほどあげた補助資料の準備です。授業でふれられてない点を補う、時事問題に関心を高めるためのものです。最後の点は、両論併記です。教室のなかでは、学生と教員との権力関係があるわけです。対面の語りではなく、文字が主力になってしまうといつも以上に教員の意見が強く出かねません。そこでこの事象については、Aという見方もあればBという見方もあるよね、という形で記述すること、教員の意見を書くときはその旨を明記することを心がけました。

授業の成果と課題に話を進めると、1点目の成果としては学生が自分たちの授業コメントシートを書く時に単に感想だけではなく、自分なりに調べたことも書けるようになったことがあります。あと授業内容に関するニュースを見るようになった、関心を持つようになったというコメントは素直に嬉しいものでした。2点目は思考の循環が機能したことです。受講者がパワーポイントを閲覧する→授業内容を自分で咀嚼をする→コメントシートを書く→教員がレビューをする→受講者がさらに考えて次のテーマに進むというサイクルがうまくいきました。コメントシートを通じた双方向的なやりとりの結果ではないかなと思います。

3つ目は受講者が自分の言葉で自分の考えを書く習慣がついたことです。これは非常に大きかったと思います。受講者が書いていたのは他の人の意見を知ることで自分の考えが広がって深まったこと、あるいは、このご時世では自分の考えを自由にかけるのは意外に少なく、そういう意味でその授業はありがたかったとのコメントがありました。授業の冒頭において、私が「教員の意見に安易に迎合してはいけな」「自分の意見を持たないとダメだよ」と繰り返し言ってきたことが功を奏したのかもしれない。最後の4点目、これは僕

が一番嬉しかったことですが、途中で放棄した学生がこの授業一人もいなかったことです。これは、ほとんど経験がないことです。

ただ課題もいくつか浮き彫りになりました。特に教員側の課題です。1点目は調べ学習の展開が十分にできていなかったことです。例えば、レポートについては文献を活用して書かせる、あるいはテーマを一つではなく、複数用意することでより自主的に勉強できる準備をするべきでした。図書館の図書貸出制度も今後、より積極的に活用できるようにしたいと考えます。2点目にあげた意見を交換する掲示板の活用、3点目にあげた音声をいれた資料や Zoom の活用なども要検討課題です。とくに3点目の課題については、あとの先生方のご報告から勉強させていただきたいと思っております。

最後の点ですが、今回「現代ヨーロッパ事情」は確かに授業評価が高く、その点では「うまくいった」と言えるのかもしれませんが、ただ、別の学生に同じことをやって通用するかというところではありません。遠隔の場合には、受講者の反応をいかに読み取るのか、一方通行にならないことが肝になると思います。また、感想を率直に言える風通しの良さが欠かせない環境でしょう。さらに、授業内容を受講者にとって少し難しいレベルに設定することが非常にポイントになると思います。もう一つ、対面授業と同じですが受講者のやる気をだす工夫も欠かせない点であり、その一つがコメントにこまめに返信をするというところでした。今回の授業で主体的・対話的で深い学び、アクティブラーニングが成功したとすれば、それはあくまで学生の自主的な頑張りがあってのことです。人間文化の学生たちの底力が垣間見えた気がします。逆にいえば、だからこそ、学生の自主的な姿勢を引き出す、あるいは学生の問題感心をいかにして掘り起こすかということの難しさを痛感したわけです。

最後に授業の成果について、学生の期末レポートを具体的に紹介しておきたいと思っております。先に述べた通り、期末レポートでは、授業内容をふまえつつ、新聞記事を用い、新型コロナ禍のなかで民主主義が機能する条件を考えてもらいました。この受講者のレポートの出来が一番良かったと思われるので、少々長くなりますが一部を紹介させていただきます。「資本主義と社会主義、独裁と民主主義、どちらも対極する考え方であり、これらの優位性を競い合いながら、何度も世界は対立してきました。ですがどんな社会思想でもそれぞれ理想と矛盾が同居しており、必ず問題点が存在しています。どのような社会であっても、そこには必ず格差や貧困、不平等は生まれてしまいます。そもそも完全な民主主義を作り上げること自体が不可能なことなのかもしれません。

もしも今後、私たちが民主主義社会の中で生活していきたいと考えるのならば、こうした[政府がさまざまなツールで国民を監視する]技術に頼るだけではなく、私たちそれぞれが個人の意思で、感染拡大防止のための行動をとる努力をするべきだと思います。民主主義社会である以上、私たちのプライバシーや人権は必ず守られるべきです。ですがそのためには、私たち自身の健康を守る行動をする。自由が与えられているからこそ、自分の身は自分で守る。それこそが民主主義を機能させるための条件であり、民主主義を生きる私たちの責任なのだと思います。」と。このレポートを読んだときには少なからず感動しました。授業内容や資料の文言を言い換えるだけではなく、授業を通じて学んだことを自分の言葉で整理できていることに驚いた次第です。ただこの学生さんは、コメントシートでは授業内容が少し難しかったと書いていました。今回の授業の難易度の設定はギリギリのところだったと思います。

講義科目については、私に限らず皆さんも同様と思いますが、どうしても学生が受け身になりがちです。その中で学生の主体性を引き出すための工夫については、遠隔、対面にかかわらずこれからも考え続けていかないといけない課題でしょう。今日のシンポジウムで私自身も色々勉強させていただきながら今後につなげていきたいと思います。それでは、甚だ拙い内容ではございますが私の報告はこれで終わりたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

(司会：大塚 豊 副学長) 村上先生ありがとうございました。続きまして、「思い出に残るノートを作ってもらおう」というテーマで工学部の香川先生ご報告をお願いしたいと思います。香川先生宜しくお願いします。

思い出に残るノートを作ってもらおう 香川直己 工学部スマートシステム学科教授

(香川直己 工学部スマートシステム学科教授) みなさんこんにちは。工学部の香川です。変な題目です。「思い出に残るノートを作ってもらおう」。実はこれは自分が4月30日の夜中、5月1日になるかなって時に思わず呟いた言葉です。それまでの経緯をお話したいと思います。実はですね、ダイヤモンドプリンセスが入港して初の感染者が出てきたのが2月の5日ぐらいだったんじゃないかなと思うんですよ。多分2月のバレンタインデー辺りかなってというのが都内での感染者が出たかなっていうあたりでしたね。要は2月には多分こんな風になるで、ってことは僕自身はちょっと覚悟してました。ただ僕は変なたちで口に出すと言霊っていうんですか、本当になってしまうことがよくあるんで、あまり言わないようにしようとはしてたんですけども、ずっと気になってました。それで入学への指定校とかで入ってこられる学生さんに対する入学前研修行いますけども、今までもセレッソでずっとやってきたんですけど、これももっとちゃんとセレッソを使っかないとダメかもしれないと思って、特にですね、ここに書いてあるように、フィードバック、このところですね、これどれぐらいの頻度でできるんだろうかというのを実は2月から3月にかけて2ヶ月間ちょっと頑張ってみたっていうバックグラウンドがあります。

でもなんです。4月の一月間何を悶々としていたか、どんなことを考えていたか授業料相応のものが提供できるかなという話です。対面ではない状態で、もうほんと今まではなんとなく対面を補うものとしてのオンラインの感覚があったんですけども、これが主体になった時にこれに価値が出るような格好ができるだろうか。めちゃくちゃ怖くなりました。なぜか特に新入生、初めて大学に来る。お父さんお母さん、大学を知らない人もいます。その家族に対しては大学の楽観評価、つまり対応能力とか教員の質を決定づけてしまうだろうなと思ったんです。退学する学生が出るかもしれない、下手をしたら。これめちゃくちゃ怖かったですよ、本当に。それからもう一つ。無い袖は触れない。大学とかこの地域のですね、データの通信のいわゆる容量です。そんなに大きくないだろうなというのは思ってたんですよ。でその次です。2月ぐらいから気になってたんでオンラインというのをやろうと思ったらどんなことが出てくるのかなと。今まで使ってきたセレッソ。これ本来どういう機能を持ってるのか、それから Office365 を使ってきましたけど、OneDrive とか Teams とか、これって

だいたいこの Office365 ってそもそも何ものか、もう一回ちゃんと考えとかんといけんだらうと考えたんです。それから YouTube、これ今まで申し訳ないですけど単なる動画配信のサイトだと思ってたんですけど、すこぶるこの技術力が高いっていうのがわかってきたっていうのも、これ絶対ちゃんと使わないといけないなど。動画画像として名を馳せ出したのが Zoom でしたね。これって一体どんな能力を持っているんだらう、何ができるんだらう。しかも Zoom の場合っていうのはご承知かもしれませんが最初の頃ばつと2月ごろですかね、割とこう有名になってきて、そのあとに叩かれてるんですよ。これ情報抜けるんじゃないかねとか、実際に中国大陸経由してデータが来ていたようなんですけど、僕の感覚ではいずれこうゆう風に叩かれると、ちゃんとするだらうなというのがあったんで、この Zoom というのもこれは使えるだらうなということになりました。

あと著作権です。これは一番厄介だらうなと思いました。できるだけこの著作権には触れないほうがいい。それからきつと最後まで続く、少なくとも前期最後まで、評価まで行くだらうな、何を評価すればいいのかという話です。それからオンラインと言ってもオンデマンド型動画配信とか、資料配布、それからもう一つは Zoom とか使った動画型それぞれの特徴は何かなど。それから最後そもそもになってきたんです、大学の授業の価値はどこなのかという話です。一番まずいのはこんな大学行かんだってそれ全部オンラインで見てしまうたらおしまいだという話になってしまうのはよくない。出席を取る理由ってのはそもそもなんなのかということまでいってきたんです。4月30日に到達した境地。もうオンラインの授業が始まるとカウントダウン入ってきます。準備しようと思ったらもう間に合わんかもしれん。ここなんです。割きっちゃって「学び」って言葉があるじゃん。この言葉すっごく都合がいいんですよ。何かっていうと僕たちは何も伝えなくていいんですよ、言い方変えたら。「学び」っていうのはその学生の方が主体的にとかく取っていくという話です。僕はこれを絶対に最初に言うべきだと思ってたんです。「君たちの手で納得のいく大学で講義を受けた証を実体として残してください」と語って納得してもらおうと、この決心を固く胸に誓ってですね、この方針で行こうと。

では、実体として残すとは？これがさっき言った具体的にはノート。僕も大学時代の宝物っていったら何かと言ったら、自分の手で書いたノートなんです。いまだに持ってます。皆さんもそうじゃないですか。なんかこれ持つてることによってすごい勉強したって言う感覚があります。見なくてもやったなって言う。ただそういうノートを作るすべを知らない学生が多いです。今は特に。ですからそのプロセスってのを示して、各人のプロセスを評価してみよう。これが毎回の授業です。一回一回の授業でどんなノートを作ってくるかですね。いわゆるこれは形成的評価ということになるでしょう。ずるいことを言うと最終的に評価が難しくなったとしても、この形成的評価の部分というのを総括的評価の一部に使うことが可能だらう。それからプロセス、つまりこれが授業ですね、に価値を見出せば、必ず自主的になり、自ずと欠席しなくなるだらうと信じよう、だって間(あいだ)が抜けたらノートに穴が開くじゃないですか、「もったいない。ちゃんと次の話を埋めとかない」と、こう思ってくれるだらうと信じよう。画面の向こうですからどうなってるかわかりません。出来上がった

4月30日に到達した境地 結局当たり前のこと



- 「学び」と言う言葉がある。
- 『君たちの**手**で、**納得のゆく**、大学で講義を受けた証を**実体として残**してください。』と語り、納得してもらおう。
- その**過程**を示して、各人の過程を評価(形成的評価)してみよう。
- プロセス(授業)に価値を見出せば、自ずと欠席しなくなる(と信じよう)。
- でき上がった証(ノート)を成績評価の**エビデンス**としよう(総括的評価)。

ポートフォリオ



『お互いに、覚悟がいるで！』

ノートを成績評価のエビデンスとしよう。そして、最終的に学生さんが作った、書いてくれたノート、これはポートフォリオですね実は。これを成績評価の証としよう、これを総括的評価に。でも思ったんですよ、これは、お互いに覚悟がいるなど。

実はですね、僕はわがままを言って3つの科目の評価をしてもらいました。1つはスマートシステム概論、1年生の開講で履修者数は34名。実は僕の学科はまだ中国大陸に3名残ってます。これ先にあげるんですけどもこれがその評価ですね。ただしこの科目ってのは兼担です。私は動画タイ

プで3回、資料配布で2回ありました。トータルで2回。トータルでこの内容ですね。二つ目、電気電子基礎。配当は1年生です。履修者は27名で先ほどと同じ3名が中国人。この(電気電子基礎)スコアは4.8です。1年生です、すごくやっぱり一生懸命ですよ。本気で受けてくれました。なので、このスコアが出る。これは先ほど村上先生が言われたように僕じゃなく彼らがやったスコアの力です。回路理論Ⅱ、配当は2年生、履修者が25名。この科目は結構難関なんです。はっきり言って鬼門。2、3、4年次混ざっています。これ実はスコアは大したことないんです。さっきから平均カツカツのところをいってるか、低いんです。ただ一言えることはここなんです。フィードバックのところがこの科目でも4.47いただきました。これが実はすごく大切なポイントだろうなという風に思っています。

ところで動画配信の方法は、スケジュールと書いてます。オンデマンドじゃないです。実施の制約条件というのを考えました。同期型に積極的にしない。なぜかと言いますとデータダイエットをしたかった。同期型はデータをくいます。通信障害による影響を避けたいといけなくなるだろうなという予想のもと、2つ目に、オンデマンドにもしない。緊張感を維持したい。対面授業のいいところはそれだ(緊張感)と思ってるんです。ある程度の時間は決まってる、メリハリがつく、そしてもう一つは受講時間が分散できる。なぜかオンデマンドにすると先生方もお気づきになってきたかもしれませんが、学生たちは自分の一番都合のいい時間で受けますからだいたい学生が都合のいい時間は一緒なんです。さらにその都合のいい時間というのは世の中の人々にとっても都合のいい場合がある。ということはクラッシュしやすいんです。だから「学生は学生として学べる時間帯に、あなた方はちゃんと学びなさい」というのは必要だろう。ということで、きちっと時間割通りに進めるということにしました。そしてもう一つは出席(調査)の代わりに何分間授業を受けたかのエビデンスです。講義90分、できたら予習復習含めて270分学習したと、それがわかっただらいいだろうと。そして著作権に関わるオリジナリティーの確保。人の著作権には抵触しない。それから自分の著作権をもつ唯一無二の授業。これはこの先生がした授業だという話です。オリジナルです。もう一つは、教科書がなくてもいいようにしておくという話です。

使ったツールですね manaba が中心です。小テストを毎回活用しました。公開時間は正規授業の(開始)5分前から(終了の)5分後。これで、ずるいんですけど90分。回路理論Ⅱは内容も難しいので後ろに40分(延

| 調査の対象とした講義 | | | | |
|---|-------|-------|----------|-------------|
| <ul style="list-style-type: none"> スマートシステム概論 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 配当1年次 ▶ 履修者数 34名 (他学科4名、中国本土3名) ▶ 動画3、資料2、同期(Zoom)2 | 質問2 | 質問6 | 質問9 | 質問10 |
| | 授業ツール | 課題の形式 | 学修への取り組み | フィードバックサポート |
| | 4.58 | 4.39 | 4.35 | 4.26 |
| <ul style="list-style-type: none"> 電気電子基礎／電子基礎 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 配当1年次 ▶ 履修者数 27名(中国本土3名) ▶ 動画配信(スケジュール) | 質問2 | 質問6 | 質問9 | 質問10 |
| | 授業ツール | 課題の形式 | 学修への取り組み | フィードバックサポート |
| | 4.69 | 4.69 | 4.65 | 4.65 |
| <ul style="list-style-type: none"> 回路理論Ⅱ <ul style="list-style-type: none"> ▶ 配当2年次 ▶ 履修者数 25名(2、3、4年次) ▶ 動画配信(スケジュール) | 質問2 | 質問6 | 質問9 | 質問10 |
| | 授業ツール | 課題の形式 | 学修への取り組み | フィードバックサポート |
| | 4.35 | 4.12 | 4.18 | 4.47 |



麗山大学

令和2年度第3回教育改革シンポジウム

6

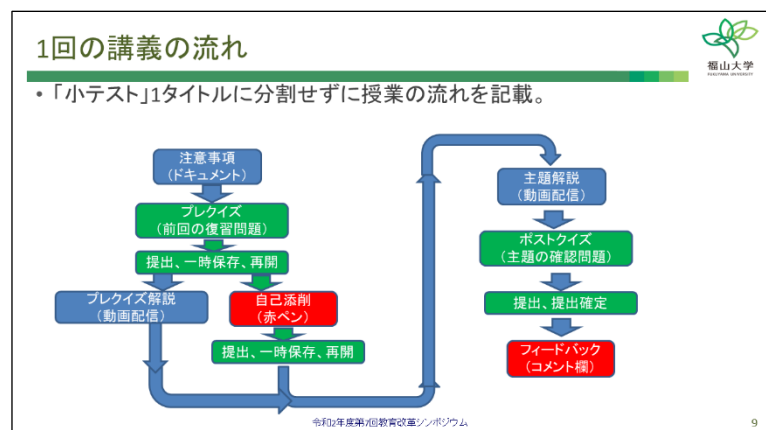
長)。4限目だったので後ろがなかったのでできた。

講義内容を Zoom を介して事前に録画。Zoom はすごく優れている。データダイエットできます。PDF プラス音声で1分(あたり)1メガ(バイト)とすごい軽量化されてるんです。動画は YouTube にプライベートに投稿しておきます。YouTube、山本先生が言われたように、これ繰り返しができます。倍速ができます。それから字幕の機能が出てくるんです。だからなんとなく特に外国人の人はそうですけど、正しい日本語が出ないですけど、そこそこには出ます。そういう優れものです。セレッソの小テストのページにリンクを貼っておいて講義の進行に合わせて限定公開で出したんです。(終わったら)すぐにプライベートにして、いつまでもダラダラ見せないようにしました。「限定公開」、日本語(の意味)だったらその人しか見れないということになりますが、実は URL を知っていたら誰でも見れます。そんなことにならるように隠しておいたということです。Office365、SharePoint のなかに自分の講義のサイトを作って二つのアーカイブをしました。一つは完全なプライベート、これは私個人用です。いわゆるティーチングポートフォリオを作った。もう一つ、これはドキュメントライブラリーという機能を使って履修者だけが閲覧できるような(アーカイブ)、しかもダウンロードできません。閲覧だけです。そういう場所を作っておいて復習は必ずできるようにしたということです。

先ほどですね、シラバスの話が出ましたけれども実はセレッソの上で僕はシラバスを書いているわけです。時間を区切ってですね。ポイントは途中で一時中断のボタンを押さすんです。そうすると学生がどこまで進行しているのかこっちにリアルタイムで見えてきますから、それに合わせて動画の配信を開始したり止めたりというようなことをやっていたということなんですね。動画の内容、これは過程を示したかったんです。「板書を作る」っていうのはプロセスで、パワーポイントでできたやつをパンと載せるっていうのはプロセスになりません。だからどこから書いて、どう説明しているか、これが重要なポイント。あまり動くと動画のデータ容量が増えるということで iPad の手書きツールを使って対応した。つまり僕の姿は映さずに書いている様子だけ文字だけでじわじわ書いていくということですね。こうして出来上がった手書きノート(板書)を教材としてティーチングポートフォリオと学生が再び閲覧できるサイト(アーカイブ)に入れるってことをしました。

先ほど言った話はこれです。この流れに沿ってずーっとやっていってもらいます。これ前回の復習の問題、そして解答を書いてもらって解説も述べます。そのあとこの提出してもらったそのノート、自分の手で赤ペンで添削してもらいます。つまりこの授業終わったら真っ赤っかのノートができる人とある程度書いて赤で直したノート。これで一回分のエビデンスが取れるということですね。場合によっては二つ目三つ目という形になる場合もあるということです。

それから講義の補講というのも準備もしました。実をいうと7月の再びオンラインになった時に(精神的に)ダメージを受けた子が多いんです。その子をどうやって救うかということで必殺技としてはセレッソのプロジェクトの中にさっきの小テストと同じものをインポートしてその対象の学生だけが、決まった時間



というよりも(自由な時間に)受けて、そのログがきちっと何分受けたか証明で残るようにしました。いつ受けても何分ちゃんと授業を受けたから、出席という話です。

評価、どうしましたか？ですが、考える問題を出しました。先ほどの話と同じようにちょっと難しめです。二日とか一週間と十日とか(掛るような)。ハ

ッカソン風味です。アクセスログを見て、僕はちょっと泣けてきました。なかには16時間ずっと座り続けて解いた痕跡を残した子がいます。こんな感じで自分できちっとノートを書き、最後には綺麗に清書版のノートが出て、そこに至るプロセスが見えますからこれを見るだけで評価できるんです完全に。成績分布ですけど、やっぱり試験評価同様になります。この辺できる子なんですけどこの辺は伸び悩んでいる学生。これ(学年を追うごとに)二分化してくるんですけど、この(伸び悩んでいる)子らが前の方にきてくれたらいいだろうなという風に思っています。

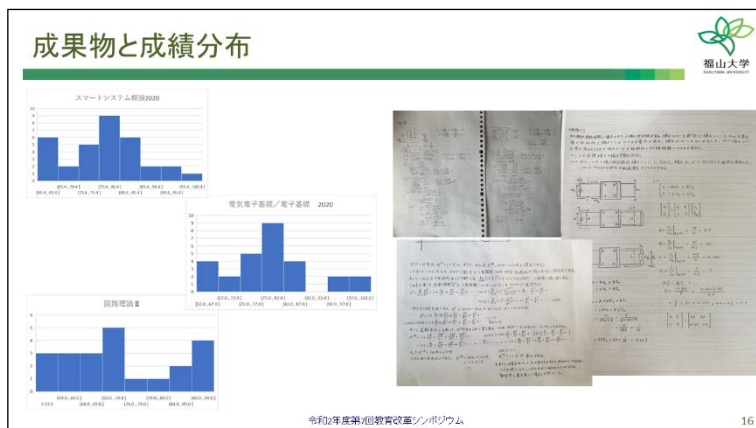
あとこれ(学生からのコメント)は機会があったらお示したいんですけど、時間がないので。とにかく考えることができたという話が多く多いです。「自分で考えるってことがわかってきた、ありがたい。」「結構頭使いました。」「考える問題、お願いします。」と書いてくるんです。(このようなコメントを寄せる学生は)ちゃんと合格してます。ちゃんとできてますということなんですね。ただこういう風な(ネガティブな)意見もあります。ということでこれ実はですね中間の(今回の対象となった授業評価の)コメントじゃないです。一番最後の最後にコメントを、もう一回取りました。これが一番大事だと思ったからです。今回の(授業評価)アンケートのスコアっていうのは(期の)真ん中ですから、(本当の評価は)全然わかりません。

最後のまとめということで、手法はなんでもいい学生の力を伸ばすことができるかです。ただし、制約はある。それを受け入れて手法は決まる。オンラインの特徴を知り、オンラインならではの特徴を生かす。記録が残るっていうのが最大の利点ですね。僕は自分の授業、気がついたら3ヶ月で120本YouTubeに上がってました。それからオンラインの講義能力、これからの大学評価に直結するはず。ただし、フィードバックとアフターケアには覚悟はいる。これ僕が体温測定した結果なんですよ。5月に35度を下回るっていう状態が出てます。これ実はオンライン授業直前なんですよ。

先ほどお話がありましたけれども、ハイフレックス型の授業というものがこれから必要です。学生が中国大陸に残ってますから、絶対に必要になります。

すいません長くなりましたが以上で終わります。ありがとうございました。

(司会: 大塚 豊 副学長) 香川先生ありがとうございました。ちょっと時間が押しておりますが、最後の事例報告ということで工学部建築学科の佐々木先生から「Zoomを使ったいつも通りの授業と少しの工夫」というテーマでお話をいただきたいと思っております。よろしく願いいたします。



Zoom を使ったいつもの通りの授業と少しの工夫～建築学科1年＜住宅計画＞の授業より～ 佐々木伸子 工学部建築学科准教授

(佐々木伸子 工学部建築学科准教授)

建築学科の佐々木です。今、香川先生の話は圧倒されながら聞いていました。私は Zoom を使ってはいるのですが、本当に難しいことを考えずに普通に授業をしたので皆さんの参考になるかどうか怪しいです。では Zoom を使ったいつもの通りの授業と少しの工夫ということで説明します。今日はこういう流れで順番にやっていきます。ちょっとスライドが多いです。

4月に大学で授業できないけど授業をしないとイケない、5月の半ばから遠隔授業ですよと言われたので、最初は情報収集だろうということで4月1日に工学部長の山之上先生がこういうメールをくれました。Facebook でこんなグループができたよと。早速、私入ったんですけど入った時は300人ぐらいのグループが今2万人になっています。このFacebookの中にすっごくいっぱい情報があつたんですよ。これ参考になりました。あと4月6日に大学からオンライン講義に関する講習会のメールがきました。私は出られなかったんですが後で見たいですって言ったら、金子先生が丁寧にここに載ってますよと教えてくれました。これ非常にいいです。うちのICT教育部門のページに資料がいっぱい載ってます。非常にわかりやすい資料でした。これを見ていくとセレッソベースで授業してください、そして授業方法は3つありますよと。

私はパワーポイントだと、授業スライドだけ見てわかるように、修正していくのは大



今日の報告

- 0.なぜ、zoom?
1.授業の概要
2.どのように進めたか
3.授業の工夫
4.成果と課題



遠隔授業の準備

5/7からは遠隔授業だけ

前提条件 Cerezoベース

授業方法の選択肢

PowerPointの公開 (オンデマンド)

授業スライドだけみてわかるように修正するのは時間がかかりそう

YouTubeによる限定公開 (オンデマンド)

撮影して編集するのは時間がかかりそう

zoomによるビデオ会議 (オンライン)

これまでの授業資料をそのまま使える

↑これまでの授業と同じやり方で準備不要

0.なぜ、zoom?

住宅計画

建築学科1年の専門科目

- ・1年生=入学式もなく、ガイダンスを2日間だけ受けて、遠隔授業スタート
- ・教員も出校停止で自宅から授業
- ・同じような境遇?
- ・最初の3週は教科書なしで実施!!

大学生活のワクワク感がない
&
リアルが不足してるなあ

だったら、zoomでライブ配信の授業をしよう!

変そうだなと思いました。YouTube撮影が無理無理、私 ICT 苦手なんです。Zoom によるビデオ会議っていうのは今まで作っているスライドをそのまま使えて同じやり方でできるよね、これ準備いらないうえです。こういう非常に単純な理由で Zoom を使うことにしました。ネットワークダイエットとか全く考えてなかったです

もう一つの理由なんですけど、建築学科1年生に授業しなくちゃいけない。今年の1年生っていうのは入学がなかったです。ガイダンスは2日間だけ緊急的にきて、そして1ヶ月お休みしていきなり遠隔授業スタート、非常にかわいそうですよね。教員も出校停止で家から授業しないといけません。こういう状況を見るとせっかく入学したのに大学生生活のワクワク感がないよね、何よりないのはリアル感、現実感がなくなっているんじゃないかなと思いました。教科書が揃わないから3週は教科書なしでやってくださいよね、というメールも受けたので、じゃあZoomでリアルタイムで授業やりましょうということで、非常に単純に私はZoomを選びました。

このスライドは受講の形態を15回振り返って集計したものです。青色の部分がオンライン出席でZoomで水曜の2限にリアルタイムで受講している学生です。緑色がオンデマンド出席で、あとでセレッソの閲覧資料を見て受講出席している学生です。ずーっと欠席の子がいたんですけど、ここの6月22日で対面授業が再開したのですが、対面授業再開後はリアルタイムで授業を受ける子が減りました。途中1回だけ増えてるんですけどこれは1回休校になって、オンラインのみの授業になったので、リアルタイムで出られるようになった時です。

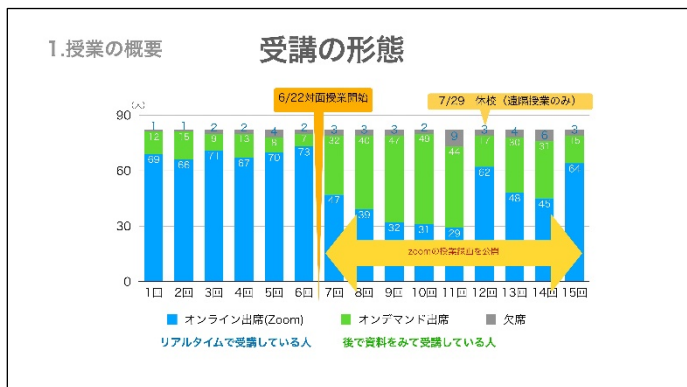
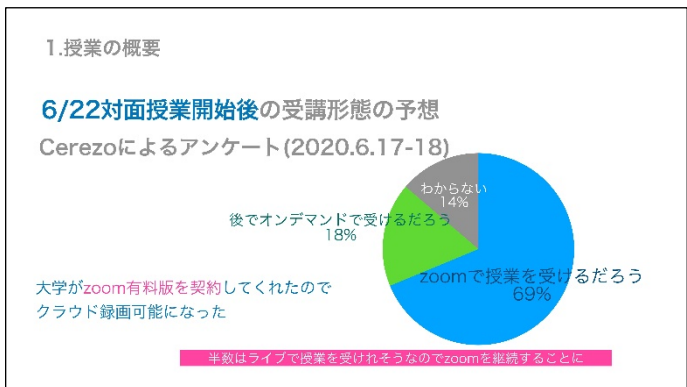
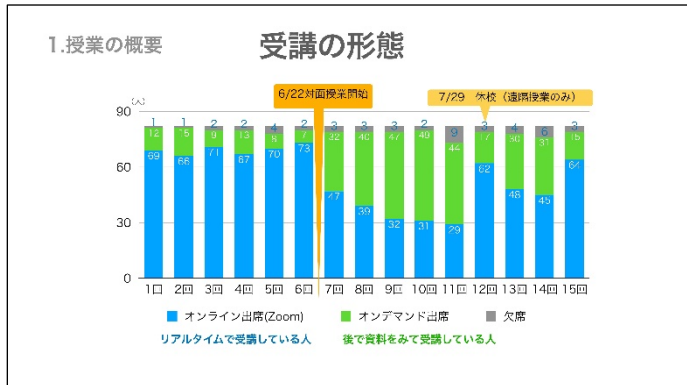
対面授業再開開始後は、授業はどうなるかなって、Zoomでライブ配信できるかなって、アンケートとったんですけど、多くの学生がZoomで授業受けるだろうということを回答していました。この時期に大学がZoomの有料版を契約してくれたんですね。これ非常に

1.授業の概要

住宅計画 建築学科1年の専門科目 受講者82名

- 教材は、教科書と講義用スライド (Keynote)、講義プリント
- Cerezoのコンテンツに授業開始前に講義スライドとプリントのPDFを公開
- 水曜日2限にzoomによるリアルタイム授業
- 授業後、小テストを公開、記入
- 出席は、zoom中に知らせるResponかコンテンツの閲覧履歴

学生には受講方法の選択版を提供



大きかったです。クラウドに録画が簡単にできるんです。その時間に授業をして記録しておいて、リアルタイムの受講でも後で録画をみるのもどっちでもいよっていう状態を続けようと思いました。なので、7回目以降は動画付きになります。普通に授業をしてそれを録画してそれがクラウドにあるのでリンク先をセレッツに貼るだけです。そういうことでZoomで双方向授業をやったのは最初の6回だけです。あとは動画配信とコンテンツ配信、普通の他のオンデマンドと変わらない授業、ただしリアルタイムで聞く人もいるよという状態です。

授業の進み方なんですけど、これが住宅計画のセレッツのコースです。先生方とほとんど一緒だと思います。

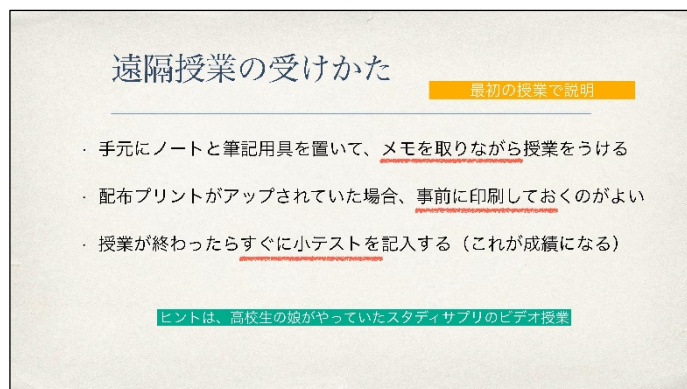
授業の案内をコースニュースのところに、毎回ZoomのURLを招待としてを配信します。そして、招待の前にコンテンツに一回ごとに授業のスライドとか配布プリント、教室だったら印刷で配るものをPDFにして保存しておきます。あとはスレッドに質問とか連絡事項をいれるっていうのは全く一緒だと思います。最初にZoomの説明をしておきました。1回目の授業がこれです。5月13日です。

最初に大事なものは遠隔授業の受け方です。1年生っていうこともあってまず手元にノートと筆記用具を置いて、メモを取りながら授業を受けてくださいよと説明しました。配布プリントは事前に印刷できたら印刷しておいた方がいいよ、それに記入した方がいいよ、授業が終わったらすぐに小テストやろうね。元々、授業では毎回小テストをやっていたので同じかたちです。

このヒントは高校生の娘がやっていたスタサブ(スタディサプリ)です。大学よりも先に高校の方が休校になって遠隔授業だったんで、情報がありました。スタディサプリってこういう形式なんです。スタディサプリの講師の人たちは非常に授業が上手なんで、ポイントポイントっていうのが横で見てもよくわかりました。これが私の授業のZoomの録画をスクリーンショットしたものです。

こういう風にスライドを出してそしてここに私の顔が喋ってる様子が映る。この顔出しっていうのは恥ずかしいけどもそんなことは言っていない。学生もわからないから身振り手振りで説明できるので、顔出しは非常に重要だと思います。

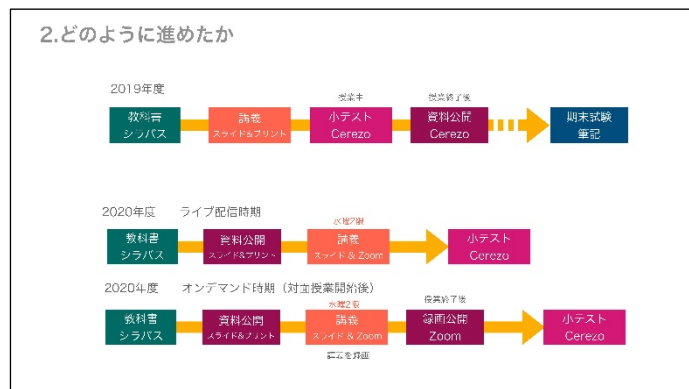
もう一つZoomはチャット機能っていうものがあります。これおもしろいでしょ。最初の授



業でチャットの入力方法を試しました。「みなさん聞こえますか？聞こえたら聞こえましたって入れてくださいー」と言って、言ったらダーっと「聞こえました！」って80人から入るんですね、60人ぐらいか、この時は。最後にこれで授業終わりますよって、じゃあ退出してくださいって言ったときに、1回目の授業で「普通、退出するときにはお礼言って挨拶して出るよね」って言ったら、「ありがとうございました、ありがとうございました」と入力してくれる。これ最後まで続きました。可愛いですね。

授業の途中で質問があったらチャットを使ってねと言っていたんですけども、授業中に質問をしてくる子はいない、ほとんどなかったです。授業終わった後に質問してきて、そこからチャットとか音声で話したことはあります。ただ毎回伝達事項ですね、「待機室から入れない人がいまーす」とか、「Wi-Fi調子が悪いので一回抜けてまた入りまーす」とか、そういう伝言を入れるという形でした。6月22日以降なんですけれども授業の最初にレスポンの番号を見せてリアルタイムの人はそのまま出席を登録します、あとで見る人は金曜日の17時までには視聴してくださいと書いて、動画を閲覧したらここに書いている番号で出席を登録するようにしました。

授業をどのように進めたかなんですけれども去年までは教科書とシラバスをベースに授業をして授業中に小テストをして、授業が終わってから資料PDFを公開し、それがずっと15回続いて期末試験でした。今年は、ライブ配信期は事前にスライドとプリントを公開して授業をして、授業が終わってから小テスト。オンデマンド期になるとそれにZoomの録画機能も追加して、小テストという流れです。授業の工夫ですけれども講義内容も講義方法も今まで通りで本当に何も考えずに普通にやりました。定期試験がなくなって評価が毎回の試験になったというだけですね。そうすると遠隔授業にかけているのは教室のムードとか隣で勉強している子の様子とかになります。それがわからないから遠隔授業では一緒に授業を受けている見えない隣席の人、これを可視化できないかなということを考えました。学生は一人で授業を受けているわけですから、隣の人の気配を一緒に受けている人にわかるように、ライブ感覚を伝えるようにしました。



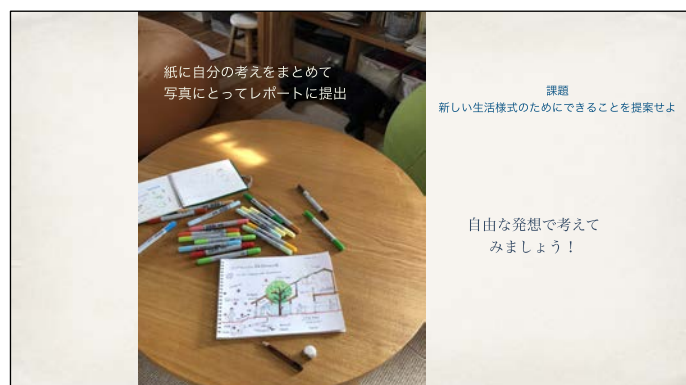
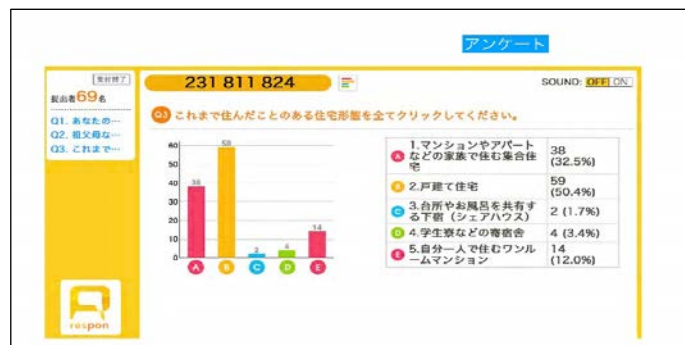
ということで1回目の授業で私も自宅から授業を配信していて、住宅計画の授業だったので、自分の家を教材にして授業をしました。そして、レスポんを使って授業中にリアルタイムでこういう学生が反応できるようなことをやりました。あなたの家族形態とか、それから今まで住んだことのある住宅のタイプとかを質問しました。他の人の状況を知るためにですね。それからどこに住んだことがあるか、行ったことがある地域とか、外国に住んだことはあるか、こういうことをやってレスポんの中にクリッカー機能もあるので、最初に番号だけ入れといてチャットであなたの好きな場所、家の中の好きな場所を出してもらって、その項目を入力してレスポんの結果をみせる。これでみんな他の人も一緒に授業やってるんだなということがわかってきます。

第2回目の工夫は授業レポートです。これもセレッツにあるんですけども、相互閲覧という機能を使ってレポートを提出させ

ました。ちょうど2回目は住宅がいろんな環境の変化によって変わっていくってことを話した後に、コロナでも変わるよねっていう話をして、私がサンプル的に書いた手書きのものを見せて、そして新しい生活様式のためにできることを提案してみなさいと。手書きでいいですよ、写真を撮って提出しなさいというのをやりました。こんな感じですね。

セレッツに提出して相互閲覧するっていうのは事前にみんなに言ってますから恥ずかしくないものをだしてねって。こうするとですね、コメント入れてと言ったわけじゃないのに、学生が反応入れるんですね。私もびっくりしました。1年生で。他にも他の人がどんなことを考えているのかわかるっていうのが見えるのでおもしろいです。遊べる住宅があったらいいとか、色々本当におもしろ提案を書いたものができます。これでまだあったことがない同級生の様子っていうのが非常にわかります。製図の授業が対面授業であるんですけどこれが対面授業の導入になったかなって思います。

つまり、Zoomの工夫っていうのは一人で



の学びを補うものを提供することだと思います。リアルタイムだったら隣の人の学びとかがわかりますがその代わりの授業に参加する仕掛けを用意するという事です。

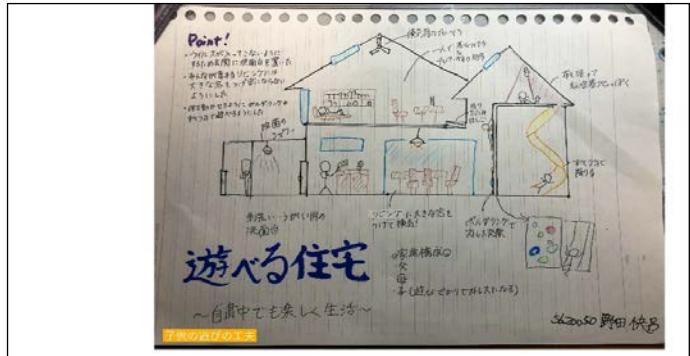
3年生の選択科目では別の工夫をしました。これはですね、Zoom にブレイクタイムアウト機能というのがあって4、5人のグループで部屋を分けるんですね、その中で話し合いをさせて、そしてみんなで協力してパワーポイントを作って、これまたZoom で発表するっていうのもできました。3年生だったからできたのかもしれないですが、この授業の最後にみんなで記念撮影をしようってことで顔出しを、女子はほとんど顔出しをしませんでしたね。

思わぬ効果ってあるんですけど、スレッドをセレッツでよく連絡事項に使います。そうするとですね、出席はゼルコバで確認してねっていうのをいれると、どこで確認ができますかと質問が入ります。私が返事を入れる前に他の学生が「ここここで、できますよ」と入れてくれるんです。非常に楽しんでました。他にも授業中に「Zoom に入れません」というのを書き込んだ学生がいて、そうするとまた別の子が「こうやってこうやったら入れますよ」と入れてくれて、「ありがとうございました」とまた入力があって、教師なしで完結しちゃうんですね。授業でお互いの存在を意識させると、1年生の最初、まだ会ったことがなくてもこういう行動ができるのかなと思います。

授業の成果と課題なんですけれども、これはセレッツのアンケートそのままですね。

初年次学習としては非常に熱心に取り組んだままあ熱心に取り組んだというのが9割なのでよかったんじゃないでしょうか。成果が大きいのは授業資料コンテンツの閲覧回数です。緑が去年、青が今年です。桁が違ってびっくりしました。グラフにするとこんな感じですね。

去年は1回あたりの平均閲覧回数が99、今年が168っていう風に、本当に差が大きい。一人当たり15回

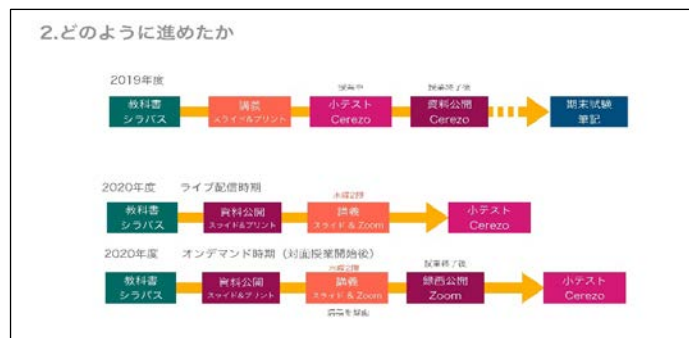
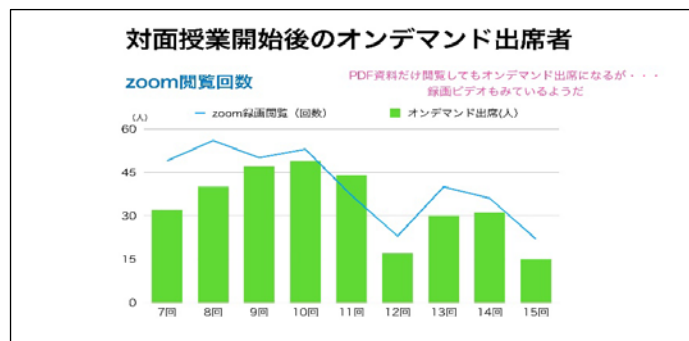
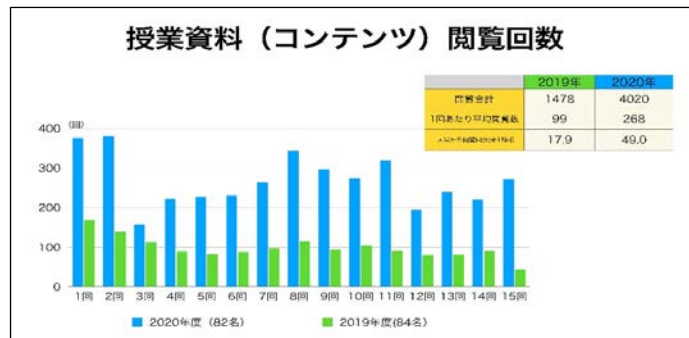


の授業で17.9回見ていたものが49回見てるという状態になっていました。なんでかなって思うんですけども、ここはZoomで授業を録画したものを公開しました。でもあの公開したんですけども、見てるかなって思ってZoomの閲覧記録を見てみたらこれは緑色がオンデマンドを中心にとった人ここがZoomの閲覧数。Zoomの閲覧数の方が多いので授業はビデオを見てるんだと、スライドを閲覧するだけでもビデオを見るだけでも出席はOKなんです、学生はわかりやすいのでビデオを見てるってことがわかりました。

結果ですね、これは黄色いところに着目してください、毎回の授業でやることを15回繰り返して期末試験というのが緑色です。今年の遠隔授業は毎回小テストというのが必要です。なので、この1回の授業の中に学生の復習行為が入るんですね。これで閲覧回数が増えるということだと思います。ポイントは毎回復習が繰り返されるってことです。ライブ配信の授業をしたら、結果として、授業をライブでやってそのために事前に資料を配布して授業録画が勝手にできちゃうんで、それをコンテンツに使う遠隔授業のツールが全て入ってるんですね、学生がそれを選べるということです。

なので、ライブ配信の授業をしたら自動的に授業できますからスライドの講義資料を使ってる先生、これはZoomを使ってそれを説明して録画したら楽で効率的です。そのやり方は大学ホームページのICTセンター、ICTサービス部門の中にしっかりと書いてます。すごくわかりやすいです。オンライン講義に関する講習会ってところに書いてありますのでぜひご覧ください。

これは授業アンケートの集計回答ですね。アンケートで思ったことはネットワークの問題が指摘されていますが繋がりにくい学生は確かにいます。しかし、学生はオンラインゲームはよくやっているし、1時間YouTube見ることもなんか普通のことだし、そんなにネットワークに支障はないんじゃないのかなと思います。授業環境は隣の人はいないけれどもそれは工夫でなんとかなるから対面授業よりも講義に関してはいいんじゃないか



ライブ配信の授業をしたら

結果として

- zoomでライブ配信の授業
- + 授業資料の配布 (オンデマンド教材)
- + 授業動画ができる (オンデマンド教材)
- + 確認テスト

遠隔授業のツールが全て入っていた

学生にとって学習方法の選択肢が増えるのでGOOD!
「自分に合った受講方法を自分で選べる」

なっています。ただ実習系とかはできないですね。結果として、学生は通常より勉強して、学生は充分に対応して、選択肢はたくさんあったほうがいい。教員にとっていいことは授業中の無駄話とか居眠りが見えないので快適に授業ができるんですね。意欲のある学生はより積極的に、ただし意欲のない学生へのフォローっていうのがより難しいというところなんです。

最後に私が自宅からライブ配信の授業をしていた時の1番の障害はこれでした。犬が吠えるんですね。授業中の録画に犬がワンワン吠えてるのが残っている。これもライブ感覚ならではのことと思います。以上です。

(司会：大塚 豊 副学長) 佐々木先生ど

うもありがとうございました。時間は相当きつくなってきていますけれども、これから全体討議に入ろうと思います。ちょっと舞台を準備しないとイケません。5分間準備ができるまで休憩いたします。できるだけ早く準備したいと思いますのでよろしく願いいたします。

| | |
|--|------------------------------------|
| 授業プリントがあり要点をまとめられた教科書に掲載されていない補足の資料を配信 | 質問があればすぐに聞ける点 わからなかったところなど質問できる |
| コミュニケーションを取りながら学ぶことが出来る | |
| 相互閲覧レポートではみんなのアイデアも閲覧できるので学びが深まった。 レスポンスのアンケートを利用して、みんなの住宅の状況やこれまでの経験を知ることができ、楽しみながら授業を受けることができた点 | |
| 見返しが可能な点 zoomで見落としした内容もセレッソのスライドで確認できた | 対面授業のように受けれたからよかった 先生の声が聞ける |
| zoomによって、本格的な授業ができています。 Zoomを通しての授業だったため、自分で資料を見て学習するときには分からない大切なところを教えていただけました。また、Zoomで見落としした内容も、授業で公開したスライドをセレッソに載せてもらえたため良かったです。 | |
| 自分の部屋で集中して学習に取り組めた 他の生徒が周りにいないので、集中できる 自分のペースでできる | |

zoomによる遠隔授業の課題

授業が終わって思ったこと

対面授業よりいいかも！

1. ネットワークの問題
つながりにくい学生がいることは事実
しかし、学生は動画サイト、オンラインゲームは当たり前のはず
受講の選択肢の提供によって解消
2. 授業環境の問題
孤独な学習、隣の席の人の様子がわからない
ここは、授業の工夫で！
一方で集中できる、何回も見返せる、通学ストレスがないとの意見も

ただ、講義科目の場合のみ
遠隔授業オンリーの生活は
学生のメンタル面でも危険

全体討議

(司会：大塚 豊 副学長) まだ席にお戻りでない先生もいらっしゃるかもしれませんが、時間も押しておりますので早速全体討議に移りたいと思います。各先生方から貴重なご報告をいただきました。まずはフロアからのご質問を受けたいと思いますが、できればマイクを渡す関係でご発言がおありの方は前にあらかじめ少し出ておいていただくと非常に助かります。よろしくお願いします。まずご発表なされた先生方からですね、それぞれの先生方に対してご質問なりコメントなりがあれば伺いたいと思いますがいかがですか。どなたからでも、どなたかに聞きたいこととかがあればですが、特にいいですか。

それでは早速フロアの方に移ることにしましょう。いかがでしょう。今日の基調講演さらに4名の先生方からご報告いただきました。これにつきまして自由にご質問なりコメントなりをいただきたいと思います。いかがでしょう、どなたからでも。山本先生に対しても、時間が限られていると申しましたので、ご遠慮なされた方もいらっしゃるかもしれません。どうぞ。

(山之上 卓 工学部教授) 今日はみなさんに大変いいお話を聞かせていただきありがとうございました。とても私にもよかったです。それでだいたいこの先生方のおっしゃることにも共通してると思ったことが、

遠隔授業っていうオンラインの方が今までの授業よりいいんじゃないだろうかという印象を持ったんですけども、いかがでしょうか。

(司会：大塚 豊 副学長) というご意見ですが、いかがでしょう、佐々木先生から。

(佐々木伸子 工学部准教授) 私は講義科目に関していえばオンラインの方はそれぞれが自分のスタイルで集中してできるので学修効果はあったと思います。わからない子は何回も見るとかできるので、授業だと流れてしまっで見れないのでだから。ただオンラインだから講義だけで全てがあるわけではないので科目によります。

(香川直己 工学部教授) 私も実習系以外の科目の場合はですね、やはり割と学生が集中しているということ、やはり何回もやっぱりわからなければ繰り返し見ること、こちらコメントをすぐ返して向こうもレスポンスするっていう、なんか密着性も高く非常に密度が濃いなという感じはしました。

(村上 亮 人間文化学部准教授) そうですね僕もやって見てそうなんですが、学生からのアンケートなんかも見るとやっぱり自分のペースでできるっていう声が多いんですね。それは学生からみても好きな時間に好きなように受けられるっていうのはよかったと思うんです。ただそうですね、先ほど佐々木先生もおっしゃられたんですが学生のフォローがやっぱりしにくい。だんだんついていけなくなっちゃう、学生の顔が見れないっていうのがやっぱりオンラインの一つの問題かな、それも学生にコメントを書いてもらうとか何らかの形でこちらでフォローしていく工夫が一つ必要なのかなとは感じました。

(山之上 卓 工学部教授) すいませんちょっと割り込みますが、ただ村上先生が言われてましたけれども、今回ドロップアウトがなぜかおられなかった、そういう意味ではよかったんじゃないだろうか。ドロップアウトした人がいなかったと。

(村上 亮 人間文化学部准教授) 多分僕の授業を受けてると人間文化の2年生がメインなんですけれども、彼らが多分他の学年と比べてよくできる学年ではあると思うんですね。真面目によく取り組んでくれる、相対的に見ても。そうなので今回たまたまっていうところもあって、例えば違う学年何年後かにした時にはドロップアウトしちゃうかもしれないので、そのところは学生によりけりということも一つの要因としてあるのかなとは思っています。

(司会：大塚 豊 副学長) 佐藤先生どうぞ。

(佐藤英治 薬学部教授) 他の先生方と基本的に一緒ですけども、基本的に授業内容によりますが、講義できっちり遠隔授業ができれば遠隔授業の方が効率がいいと学生の意見が多かったんですけども、ただしそれは十分な解説を web 上でできっちりやっていた時の話で、それが少なければ実際に授業で聞かなければわからないというコメントが授業評価の観点からもありますけれども、要は遠隔授業の内容やり方によって答えは変わってくるということです。

(司会：大塚 豊 副学長) 山本先生もどうぞ。

(講師：山本啓一先生) おっしゃることは非常によくわかります。ただ今回、遠隔授業に対して学生の反応が非常に良かったというのは、やっぱり緊急事態宣言の中で大学生が一步も外に出ないっていう、そういった特殊条件があったからということが大きいと思います。確かにこの期間は遠隔授業の効果が高かったと言えると思うんですけど、仮にですよ、4年間これを続けた時に同じ結果が出るかっていうのは、私はかなり疑

問ですし、4年間遠隔授業の方が良いとなれば、みんな通信制に流れちゃいますよね。そういう意味で、そうなるにはいけないなという気持ちもあり、この短期間の特殊な条件の中で、ある意味成立しえたということなのかなと思います。

(司会：大塚 豊 副学長) どうもありがとうございました。香川先生のご発表の中の「4月の憂鬱」という発言が気になっておりました。自分のことを言いますと オンラインの教材を作るのは大変憂鬱な側面がありました。ちょっと内実をお話しますと、今日ご登壇いただいた3名の先生方の事例はですね、あらかじめ実施をいたしましたアンケート調査の中で学生の評価が非常に高かった先生方の中から、大学教育センターの方で選ばせていただいて指名をさせていただきました。今日のお話は非常にワクワクするような、こんなにうまくできるんだという話であったかと思いますが、私も含めて、憂鬱だなと思っている先生も少なからずいらっしゃるのではないかと思います。あるいはそんなことはないと思っていられる先生もおられるかもしれません。どなたからでも何か、ご自分のご経験も踏まえて、自由にコメントをいただければと思います、いかがでしょう。お手が上がってます。はいどうぞ。ご所属とお名前をいただければ。

(内田博志 工学部機械システム工学科教授) 工学部の機械システム工学科の内田です。本日は先生方非常に貴重な興味深いお話ありがとうございました。特に山本先生から他大学の授業をお伺いできて大変興味深かったですありがとうございます。それで先生方にお聞きしたいんですが、教育ツールのことなんですが、授業用ツールですね、本学ではいろんな情報セキュリティの問題とかいろいろなことがあって、ICT ツールと言いますかね、教育ツールとして今実際に使われているのはセレッソ、要するに manaba だけだったと思います。佐々木先生の方から Zoom を使った授業の話もあつたんですけど、最初の頃はよかつたんですけど遠隔授業と対面授業が混在するようになってから Zoom はなるべく使わなくなったというお話も出てきていて、リアルタイムでオンラインで授業というのは非常に、そのできない授業になってきているみたいなこともですね。そのこととは別にしまして、山本先生のお話の中で北陸大学の方では Teams とか Office のソフトウェアとかあるいはその Google のソフトであるとか色んなツールを使っておられる事情が伺えるお話がありましたら、色んな授業のスタイルがある中でこのスタイルを使えば効率的だと。やっぱりツールが色々あるんでね、そのような状況の中でセレッソだけ、manaba ですけど、これだけに限られている現状というのはちょっと私自身寂しい気がしてるんですが。その辺の話何かありましたら先生方ご意見をいただけましたらよろしくお願いいたします。

(司会：大塚 豊 副学長) どなたか特別にお尋ねになりたい先生がいらっしゃいますか。

(内田博志 工学部教授) 山本先生もそうですけど他の先生方皆さんに。

(司会：大塚 豊 副学長) ということでありますので、じゃあ山本先生を後回しにして、佐藤先生いかがでしょう。

(佐藤英治 薬学部教授) あのう遠隔授業と対面授業が混在する時にですけど、今回の佐々木先生みたいにリアルタイムでやったやつを動画でアップしといて、それをオンデマンドでされているってことなので、そのやり方をすればオンデマンドの Zoom 説明動画というのができるかなという風には思いますけど。その他の G Suite とか Teams の話は存在は知っていますけど私も実は何がどうできるのかよく知らない状況で、山本先生に後で教えていただければありがたいかなと思ってます。

(香川直己 工学部教授) なかなか難しい質問だと思うんですが、僕は途中で言ったようにあるものをうまく使っていこうというのがどっちかという僕の感覚だったんですね。ただ G Suite なんかはやってみようと思ったらできるんじゃないかなという気はします。山本先生もおっしゃられましたように多分小学校とか高等学校とか、この辺 G Suite とか使ってるんじゃないかと思うんで、例えばそういう経験を積んでおくっていうのも学生も使った経験があるっていうのは先々なんか色んな面でも有効になってくるかなっていう気はするので、私は将来的には山本先生がおっしゃられたように色んなタイプのツールっていうのをとにかくみんなで一回経験しておくっていう環境を徐々に作っていくのは大事だと思っています。ただ今はあるものをちゃんと使って、一つ一つの深みをこう知っておくっていうのもありかなという風には考えています。

(佐々木伸子 工学部准教授) 私がこれから使ってみたい、遠隔が続くのであれば、使ってみたくてというのが山本先生が言われてた Miro っていうソフトですね。これは学生がお互いの意見を出し合うのにポストイットに書いてぼんぼんぼんと貼って行くような形で使っていけるらしいので、まだ使ったことないんですけどそういうのを使って行きたいなと思ってます、続くのであれば。

(司会：大塚 豊 副学長) 山本先生、色々お使いになった経験で、何かアドバイスがあれば。

(講師：山本啓一先生) そうですね、今のお話の中で重要なご指摘があるかと思います。一つは、小中高でもオンラインツール使うようになったわけで、例えばその地域で何が使われているかっていうのはやっぱり考慮したらいいんじゃないのかなと思います。高大接続という意味で、高校で使ってきたツールを中心にしていってというのはありだと思えます。あともう一つは、就活で起きていることですが、企業によってオンラインツールが随分違うんですね。Zoom を使っている会社もあれば Teams や Webex を使っている企業もあるということなので、一つだけに絞らず、色々組み合わせていってというのはありだと思います。と言っても、絶対そうしなきゃいけないっていうことでもなくて、先生によって多少違うぐらいでいいと思います。あと Zoom も Teams もどんどんバージョンアップしていって、一つのツールでも使える内容が変わっていきます。その時点でのベストのツールが入れかわって行く可能性があるんで、今は Zoom が一番使いやすいけど Teams の方の使いやすさが上回ってくる可能性もありますよね。そういうこともありますのであんまりツールへのこだわりはなくてもいいのかなと思います。

(司会：大塚 豊 副学長) どんどんレベルアップすると、私などはついていくのが容易じゃないなと恐怖を覚えますが、その他、もうお一方、ご質問をどうぞ。

(中嶋健明 人間文化学部メディア・映像学科教授) こんにちはメディア映像学科の中嶋といいます。今回撮影の担当なんで、それから前期の僕単独の担当科目がなかったんでアンケートの結果が出てないんですけど、非常勤の先生とやったメディア応用実習という3年生向けの授業の中で映像製作という授業がありました。本来であれば大学が使って買ってくたさった高い機材を使って生徒たちがグループで製作しなくちゃいけない、今までそうやっていた授業なんですけど、このコロナの環境下で生徒たちがほとんどアンケートで調べたんですけど、皆さんスマホを持ってたんでスマホによる撮影を主体にした作品をグループ制作ではなく、個人製作という形で全員に課しました。それで大学の授業の一番の良ところは個人で学んでるわけじゃないので、他の人の作品が見られるっていうのと、その作品について意見を述べたり、自分の作品についてコメントしてもらったり、先生のコメントを聞いたり、それがあって初めて学びになるっていうところが重要

だと思うんですけど、それを実現するためにこの度は非常勤の先生のスタジオをお借りして YouTube の配信、リアルタイム配信を使いました。それでリアルタイムの配信をしながら 3 週に分けて実は講評を書いてしたんですけど、1 コマじゃおさまりきらないので、15 人から 20 人ぐらいの学生の作品を見ては我々講師陣がコメントを伝えるっていう形式で行いました。リアルタイムで見られない学生はしばらく公開しますので、限定公開ですけども URL 張っておいてのちに見ることもできるし、それについてコメントを書くこともできるっていう形式でやったんですけど。唯一の反省はリアルタイムで配信していながらレスポンスがリアルじゃないってところがコメントを聞く後で読むしかないっていうのが、ちょっと残念で。あれに Zoom を開いておいて意見をその場で言いたい学生は、その場で Zoom で返信をするというような授業になったら、さらにリアル感が出て、先ほど佐々木先生がおっしゃっていた隣の姿の学生をより実感できたんじゃないかなと私も反省しております。

(司会：大塚 豊 副学長) ありがとうございます。コメントというか、ご感想でありましたが、どなたかにお尋ねになりたいということがありますか。

(中嶋健明 人間文化学部教授) 山本先生に。そうですね、僕はそんなような感じの授業形式が実習系科目の中では一番いいんじゃないかと思うんですけどどのようにお考えでしょうか。

(講師：山本啓一先生) そうですね、おっしゃる通りだと思います。学生が一人一人成果物を作って、それをお互いに共有しながらリアルタイムにうまくフィードバックを双方にやっていく仕組みがあるというのは、おっしゃる通り良いことだと思います。今まで今日発表された先生方のお話の中にもたくさんヒントがあったと思います。

(中嶋健明 人間文化学部教授) ありがとうございます。

(司会：大塚 豊 副学長) 山本先生、続けて総括的なお言葉を若干いただければ。

(講師：山本啓一先生) そうですね。今日は本当にありがとうございました。むしろ私の方が勉強させていただいたという感じで。先生方の実演報告はとてもよかったなと思います。時間がないのでまとめさせていただくと、これから遠隔授業あるいはオンラインツールの使い方、あるいはもっと広くいえば授業のあり方に関する大きなヒントや論点が今日は出てきた気がします。第一に大切なことは、例えば Zoom でやるにしても 90 分の授業構成、授業の構造化を全くしないでやるとむしろダメだということですね。90 分をどう構造化していくかというところが一つのポイントで、学生が講義を聞いたり文献を読んだりして、その上で考えて、それをもとに書いたりアウトプットする、そういったサイクルをいかに 90 分の中に作っていくか、これは遠隔授業を成立させる上で非常に大事だし、対面授業でもやっぱり大事になってくると思います。第二に、先生方のお話には、学生が提出する成果物をなるべく素早くフィードバックするという点が共通していたと思います。改めてフィードバックは大事だなんて気がいたしました。

それから、さっき先生方もおっしゃってたコミュニティ作りですよ。オンラインツールというのは、教師が一方向的にしゃべるためのものではなくて、相互に意見を交わしたり相互にコミュニケーションをするためのツールですので、そこではチャット機能とか、アイコンだとか手をあげるとか、色々なそういったレスポンスツールを学生に使ってもらおうといった小さなことでも、やっぱり学びのコミュニティをオンライン上で作ることを可能にしているということですし、ある意味リアルな対面授業でも、そういう仕掛けはすごく大事なことだと思います。だ

からリアルな対面授業になってもオンラインツールを使うことによって、隣の人が何をしているのかという学生が持つ好奇心は、今までは私語となって現れていたんですけど、sli.doとかresponとかああいったオンラインツールを使うことも重要だと思います。あともう一つは、学生自身が自分で何を学んでいるかを意識していくっていう、特に香川先生がおっしゃってたことですね。主体的な学修態度をいかに形成していくかっていうことがオンラインの中で非常に重要だということが見えてきたと思います。

最後にプラスするなら、私の方から提示させていただいた論点というのは、いかにそれを組織的に行うかということです。先生方の授業は学位プログラムの一つのパーツですから、一つの授業だけが良くてダメで、学位プログラム全体の質をどんなふうに上げていくか、やっぱりそこは、先生方が協力をしていく、協働していくという発想が大事です。教室内で隣の学生が何をしているかを把握するのがオンラインで容易になったことと同様に、隣の教室あるいは研究室で、同じ学部の先生がどういった授業をされているのかっていうことを風通し良く意見交換をしていくってことが大事になってくるのかなと思いました。3人の先生方は非常に重要なお話をさせていただいたと思います。私自身もとっても勉強になりました。ありがとうございました。

おわりに

(司会：大塚 豊 副学長) 山本先生どうもありがとうございました。最後に非常に素晴らしい総括コメントをいただきました。おまとめくださったので私が付け加えることはありません。ずっと長い間こういう遠隔授業が大事だ、こういうツールを使った授業は大切だと言われていたのに、事態は一向に動かなかった、政府に言われても動かなかった。ところが期せずしてこのコロナっていうものがもたらしたもので、それは災難ではありますが、これが元になって、大学の教育が大きく変わっていったし、これからもおそらく後ろに戻ることはないだろうと思います。さまざまなツールが話の中に出ましたが、前期に使わなかったツールを、今日のお話の中に出てきたもので参考になったものがあれば、是非とも授業の中に取り入れてみたいものです。それから例えば山本先生もおっしゃってくださったように一人ひとりが変わっていくのではなくて、学科とかあるいは学部として組織的な変革というのが大事であり、求められているのだろうと思います。このシンポジウムを機に、さらに我々の教育改革を進めていきたいと思っています。司会の不手際で10分も延びてしまいました。それから今日はエアコンが途中で切れてしまって、今は直っているようではありますが、大変ご迷惑をおかけいたしました。お詫びいたします。それでは以上をもちまして第7回の教育改革のシンポジウムを閉じさせていただきたいと思っています。最後にご登壇の先生方にもう一度大きな拍手をお願いいたします。